

February 2022  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

2

**PHIL  
HAR  
MONY**

## 2月定期公演 Bプログラム 出演者の変更について

指揮者パーヴォ・ヤルヴィは、2021年9月の来日時に再入国の手続きをしてきたため、現在行われている政府の入国停止措置の対象外であり、なおかつ本プログラムに関して再入国後に必要な待機期間を確保できる見通しでした。こうした理由により、共演に向けて調整を進めていましたが、最近の日本国内における感染拡大の状況等を総合的に考え、N響とマエストロ側の両方で協議した結果、今回の招聘を断念することとなりました。

ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン)は新規入国停止措置の対象であるため、来日ができなくなりました。

つきましては、以下の通り出演者を変更して開催いたします。なお、曲目の変更はございません。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。  
(下線部分が変更事項)

### 第1953回 定期公演 Bプログラム サントリーホール

2022年2月16日(水)開演 7:00pm 17日(木)開演 7:00pm

指揮:尾高忠明

ヴァイオリン:金川真弓

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」ー 4つの海の間奏曲 作品33a

バーバー／ヴァイオリン協奏曲 作品14

エルガー／変奏曲「謎」作品36

※ 第1951回 定期公演 池袋Aプログラム(東京芸術劇場|2/5[土]、6[日])、および  
第1952回 定期公演 池袋Cプログラム(サントリーホール|2/11[金・祝]、12[土])の  
出演者および曲目については本誌掲載の内容から変更はございません。

## 指揮:尾高忠明



©Martin Richardson

1947年生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に師事。1970年、第2回民音指揮者コンクールで第2位入賞。1972年、オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立音楽大学に留学し、指揮をスワロフスキーに、オペラをシュパンナーゲルに学んだ。以後、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団、読売日本交響楽団、紀尾井シフォニエッタ東京、メルボルン交響楽団、新国立劇場等で要職を担い、現在大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督などを務める。ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、ベルリン放送交響楽団、hr交響楽団など世界各地のオーケストラにも定期的に客演を重ねる。サントリー音楽賞、ウェールズ音楽演劇大学名誉会員、大英勲章CBE、英国エルガー協会エルガー・メダル、ウェールズ大学名誉博士号など受賞多数。指揮者デビューは、1971年、NHK交響楽団との放送収録。以後N響とは定期公演、全国各地での公演、放送収録など、さまざまな機会を通じて共演を重ね、2010年、正指揮者に就任。2012年には北京、天津、上海をめぐる中国ツアーを率いた。最近では、自身の曽祖父、渋沢栄一が主人公として描かれる2021年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』のテーマ音楽収録で指揮を担当したほか、同年末の「N響第9」の指揮台にも立った。2012年に有馬賞、2019年に日本放送協会放送文化賞を受賞。

## ヴァイオリン:金川真弓



©Kaupo Kikkas

ドイツ生まれ。4歳の時、日本でヴァイオリンを始める。その後ニューヨーク、ロサンゼルスを経て、現在ベルリンを拠点に活動。同地のハンス・アイスラー音楽大学でコリヤ・ブラッハーに師事。名倉淑子、川崎雅夫、ロバート・リップセットにも学ぶ。2018年、ロン・ティボー・クレスパン国際音楽コンクールで第2位入賞および最優秀協奏曲賞を受賞。さらに翌年、チャイコフスキー国際コンクールで第4位となる。これまでにハンヌ・リントウ、ユーリ・シモノフ、パスカル・ロフェ、ヒュー・ウルフなどの指揮者、マリンスキー劇場管弦楽団、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、フィンランド放送交響楽団、ベルギー国立管弦楽団などと共演。最近では読売日本交響楽団、東京都交響楽団など国内の主要オーケストラの舞台にも登場している。使用楽器はドイツ演奏家財団によるドイツ国家楽器基金から貸与されたピエトロ・グアルネリ作(17世紀後期)。

## 首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィからのメッセージ

今回来日がかなわなかった首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィから、日本のファンの皆様とN響メンバーに宛てたメッセージが届きました。



N響の首席指揮者として任期最後となる2月の演奏会のために日本へ渡航する予定でしたが、それがかなわないこととなり痛恨の極みです。この2年間ほとんど一緒に演奏できませんでしたから、私はこの演奏会をここのほか楽しみにしておりました。

新型コロナの世界的流行が始まって2月で2年ですが、我々が最後のヨーロッパツアーを行ってからちょうど2年となります。私たちはヨーロッパ各地で予定されたすべての演奏会を滞りなく行い、楽員はコロナで国境が閉じられる前に日本へ無事帰国できたのですから、奇跡としかいいようがありません。私はこのことを生涯忘れないでしょう。東京で、そして世界のステージで私たちが共に成し遂げることができた数々の演奏を誇りに思っています。

そして素晴らしい音楽を共有していただき、皆様に感謝の言葉を贈ります。

パーヴォ・ヤルヴィ

## **Change of artists for February Subscription Program B**

Conductor Paavo Järvi had taken necessary steps for re-entry to Japan at the time of his last visit in September 2021, therefore, we believed he would not be subject to the government's immigration control to stop accepting new foreign arrivals to Japan which is currently in place. Furthermore he was expected to be able to secure the required isolation period after re-entry to Japan to conduct Program B concerts. Therefore we have been taking necessary procedures for his conducting the NHK Symphony Orchestra, however, in the light of the rapid surge of infection in Japan in recent weeks, we have had rounds of discussions with the Maestro's side, and as a comprehensive judgment, have decided to withdraw the invitation.

Hilary Hahn (violin) cannot enter Japan as she is subject to the border control measures for new arrivals from overseas.

Therefore, the following concerts will be held but there will be changes in artists. The program remains the same. We appreciate your understanding.

(\* indicates a change)

## **The 1953rd Subscription Concert Program B at Suntory Hall**

Wednesday, February 16th 7:00pm & Thursday, February 17th 7:00pm

Tadaaki Otaka, conductor\*

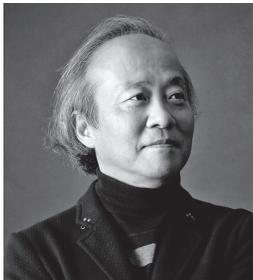
Mayumi Kanagawa, violin\*

Britten / "Peter Grimes," opera – Four Sea Interludes Op. 33a

Barber / Violin Concerto Op. 14

Elgar / Variations on an Original Theme Op. 36 "Enigma"

## **Tadaaki Otaka, conductor**



©Martin Richardson

Tadaaki Otaka studied under Hideo Saito at Toho Gakuen School of Music and further continued his studies in Vienna. He continuously held positions with leading Japanese orchestras as well as the BBC National Orchestra of Wales, the Melbourne Symphony Orchestra, and now serves as Music Director of the Osaka Philharmonic Orchestra. He has been guest-conducting many European orchestras including the London Symphony Orchestra, the London Philharmonic Orchestra, the BBC Symphony Orchestra, the Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin and the hr-Sinfonieorchester on a regular basis. He enjoys a close association with the NHK Symphony Orchestra through many occasions of collaborations and has been its Principal Conductor since 2010.

## **Mayumi Kanagawa, violin**



©Kaupo Kikkas

Mayumi Kanagawa is a Berlin based, Japanese-American violinist known for her rich, dark sound and focused, engaging musicality. Prizewinner at the 2019 Tchaikovsky Competition in Moscow and 2018 Long-Thibaud-Crespin Competition in Paris, she is establishing herself as a soloist and chamber musician in Japan, Europe, and North America. Mayumi's musical education has been shaped by Kolja Blacher, Yoshiko Nakura, Masao Kawasaki, and Robert Lipsett. She currently performs on a Petrus Guarnerius (Mantua, late 17th century) violin, on generous loan from the Deutsche Musikinstrumentenfond of the Deutsch Stiftung Musikleben.

## Message from Chief Conductor Paavo Järvi

We have received the following message from Chief Conductor Paavo Järvi to Japanese fans and the orchestra musicians as he cannot visit Japan in February.



It saddens me immensely to learn that I will not be able to join you in February for what would have been my last concerts with the NHK Symphony Orchestra as Chief Conductor. I was particularly looking forward to these concerts - especially after having had so little time with the orchestra in the last two years.

February marks not only the second anniversary of corona but also our last European tour together. It was something of a miracle that all of our performances went ahead and that the orchestra arrived safely back in Japan before covid shut down the borders. For that I remain eternally grateful - and proud of what we have achieved together on the world stages in Tokyo and beyond.

I send you all my best wishes and thanks for the wonderful musical experiences we have shared together.

Paavo Järvi

## 感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。ただし状況により係りがもぎる場合があります。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
- 厚生労働省による新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や自治体独自の通知アプリなどの活用を推奨いたします。

### お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください

# PHILHARMONY

CONTENTS  
FEBRUARY 2022

# 2

3



## N響とつくりあげたもの

——ラスト・シーズンを迎えた首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィに聞く

13 [公演プログラム] Ikebukuro Program A

18 [公演プログラム] Program B

23 [公演プログラム] Ikebukuro Program C

27 [シリーズ] N響百年史 | 第26回 | “花神”服部愿夫

片山杜秀

32 2022年4月定期公演の聴きどころ

——公演企画担当者から

34 チケットのご案内(定期公演 2021年9月~2022年6月)

35 2021-22定期公演プログラム

36 2022-23定期公演予定

37 各地の公演

40 特別支援・特別協力・賛助会員

44 NHK交響楽団メンバー

45 曲目解説執筆者 / Information / お詫びと訂正

46 みなさまの声をお聞かせください!

47 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO  
Members

[Artist Profiles & Program Notes]

48 Ikebukuro Program A

50 Program B

53 Ikebukuro Program C

55 The Subscription Concerts Program 2021-22

56 The Subscription Concerts Program 2022-23

57 役員等・団友

## インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

# Special Thanks



## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

NHK交響楽団の首席指揮者として、最後のシーズンを迎えているパーヴォ・ヤルヴィ。7年間の就任期間を振り返り、N響にもたらした影響や貢献、またN響と築いた関係性について熱く語りました。

# Paavo Järvi & NHKSO 2015-2022

ラスト・シーズンを迎えた  
首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィに聞く

あげたもの

パーヴォ・ヤルヴィ◎エストニア・タリン生まれの現代を代表する指揮者(SOCCO、ORTOFON、NOVA、KOLLE)。N響とは2002年に初共演、同年初となる首席指揮者を務める。(©ORTOFON、NOVA、KOLLE)  
※プロフィール詳細は19ページ参照

パーヴォ・ヤルヴィがNHK交響楽団の首席指揮者に就任したのは2015年のこと。以来、7年にわたり120を超える公演をN響とともに作りあげました。2017年と2020年にはヨーロッパ・ツアーを行い、N響の名を世界に知らしめたほか、CD録音にも積極的に取り組み、2021年9月には10枚目となるアルバムをリリースし好評を博しています。

N響への使命感にあふれ充実したパーヴォ・ヤルヴィの活動は、しかしながら2020年3月に世界を襲ったパンデミックにより中断を余儀なくされました。首席指揮者としては最後の共演機会となるこの2022年2月定期公演についても、日本政府の「オミクロン株に対する水際措置の強化」による外国人の新規入国制限のため、予定されていたA・B・Cプログラムのうち、Bプログラムのみが登場となります。

どのような思いで任期を締めくくるつもりだったのか、当初のプログラムに込めた意図や感慨もあわせて、首席指揮者としての7年間を振り返り、また今後のN響への期待についても語りました。

(本インタビューは2021年9月、パーヴォ・ヤルヴィ来日時に行われました)

## N響と築きあげた絆

—2020年3月、2度目のN響ヨーロッパ・ツアーを成功裏に終えた直後に、世界を未曾有のパンデミックが襲い、ツアーの成果とより堅固になったN響との絆を日本の聴衆に示すことが叶わなくなってしまいました。やっと来日公演が実現したのは2021年6月のことで、1年3か月ぶりの再会は熱狂的に聴衆に迎えられました。熱烈なカーテンコールに何度も応えていらっしゃいましたね。

やっと叶ったN響、そして日本の聴衆との再会は、感極まるすばらしい経験となりました。首席指揮者として、2週間の隔離期間があろうともN響に戻らなければならないと決意しましたが、それは正しい判断でした。再会したN響は、士気が高く、いいコンディションにありましたが、非常にインパクトのあるおもしろいプログラムを提供することができました。そして、N響とはこの7年をかけて、確かに緊密な関係が醸成されたと感じることができました。一緒に確固たるものを築きあげてきたと実感しています。



N響ヨーロッパ公演2020、アムステルダム公演(2020年3月2日、コンセルトヘボウ)

——7年前の首席指揮者就任の際には「私たちは力を合わせて特別なものを見つけることができるでしょう」と抱負を語っていらっしゃいましたね。N響に対して自分が貢献したいと語った点は何の程度叶えられ、思い描いた目標は何のくらい達成することができたのでしょうか？

N響を初めて指揮した2002年の時点で、実にすばらしいオーケストラだとわかりました。N響はすでにアジアでは伝説的な存在で、音楽愛好家のなかではよく知られていましたね。しかしオーケストラは芸術に携わる以上、現状に甘んじるのではなく、さらに高次元へと歩み続ける務めがあると私は考えています。N響の首席指揮者就任を決意したのは、その道を共に歩みたいと考えたからなのです。そのために、いかに楽員にインスピレーションを与え、モチベーションを高めていくかが自分の課題であり、求められている役目だと任じていました。

私の考えたN響の次のステージは、すでに確立されていた名声に満足せずに、トップ・オーケストラとして世界に名を知らしめること——これを私のミッションとして掲げたのです。

そのミッションを達成するために、3つのアプローチを考えました。そのひとつが高品質なレコーディングをし、それを宣伝媒体として十分に活用すること。レコーディングされた音楽はどこへでも旅をすることができるからです。それはオーケストラの、そして日本の音楽文化の、親善大使としての役割を果たすことができます。幸いにもすでに10枚ものアルバムをリリースすることができ、N響の真価を世界中に届けることができました。これからも定期的なリリースが続く予定です。これからも定期的なリリースが続く予定ですので、記憶をリマインドしていくことができるでしょう。

2つめはソーシャル・メディアを最大限に利用することです。オーケストラのファン層を拡大し、サポーターを募り、それでいながら一対一

一緒に  
確固たるものを  
築きあげてきたと  
実感しています

の対話をも可能にするために、FacebookやTwitter、Instagramといった基本的なツールを活用することを提言しました。私自身の経験を生かして、活発な発信をすることができ、世界中の音楽ファンとつながることが可能になりました。

実をいうとコンサートをもっともっと世界に向けて配信してはどうかとプランニングしたのですが、日本には特有の権利上の制約や制限があり断念しました。これから解決すべき大きな課題ではないかと思えます。

そして最後の大事な手段が外国公演です。これまでに行なった2017年と2020年の2度のヨーロッパ・ツアーは大成功を遂げ、N響の世界的な知名度を上げられたと自負しています。「2017年のロイヤル・フェスティバル・ホールでの演奏は今でも覚えている」と、イギリスでは音楽ファンの口にしばしば上るくらいです。ウィーン、ベルリン、パリなど、コンサートを行なったすべての音楽都市で強い印象を与えることができ、最高の評価をいただきました。

残念なことにパンデミックの影響で、2020年は予定していた重要な海外公演を2つも断念しなければならず、評価をさらに高めるための機会を失ってしまいました。世界のトップ・オーケストラとして認められるためには、継続的に注目を集めてその力を証明し続けなければなりません。それはこれからの活動にかかっていると思えます。

## パーヴォ・ヤルヴィ& NHK交響楽団 ディスコグラフィ

※すべてソニーミュージック RCAレーベル

- R. シュトラウス 交響詩チクルス[1]:  
英雄の生涯&ドンファン  
▶ヴァイオリン・ソロ: 篠崎史紀
- R. シュトラウス交響詩チクルス[2]:  
ドン・キホーテ、ティル・オイレンシュピーゲル&ぼらの騎士  
▶チェロ: トルルス・モルク  
▶ヴィオラ: 佐々木亮
- R. シュトラウス 交響詩チクルス[3]:  
ツァラトゥストラはかく語りき&メタモルフォーゼン
- ムソルグスキー: 展覧会の絵&はげ山の一夜  
収録曲: 組曲「展覧会の絵」(ラヴェル編) / 歌劇「ホヴァンチチナ」第4幕第2場への間奏曲「ゴリツィン公の流刑」(リムスキー・コルサコフ編) / 交響詩「はげ山の一夜」(原典版)
- マラー: 交響曲第6番「悲劇的」
- 20世紀傑作選① バルトーク三部作:  
弦楽器・打楽器・チェレスタのための音楽他  
収録曲: 弦楽のためのディヴェルティメント / 舞踏組曲 / 弦楽器・打楽器・チェレスタのための音楽
- ワグナー: 楽劇「ニーベルングの指環」管弦楽集  
収録曲: ヴォータンの告別と魔の炎の音楽 (ワルキューレ) / ワルキューレの騎行 (ワルキューレ) / 森のささやき (ジークフリート) / ジークフリートの葬送行進曲 (神々の黄昏) / 夜明けとジークフリートのラインの旅 (神々の黄昏) / ワルハラ城への神々の入城 (ラインの黄金)
- 20世紀傑作選② 武満徹: 管弦楽集  
収録曲: 弦楽のためのレクイエム / ノスタルジア——アンドレ・イタルコフスキーの追憶に—— / ハウスロー・ザ・ウィンド / 遠い呼び声の彼方へ! / ア・ウェイ・ア・ローンII  
▶ヴァイオリン: 諏訪内晶子
- 20世紀傑作選③ ストラヴィンスキー:  
3楽章の交響曲・カルタ遊び・ミュズの神を率いるアポロ
- 20世紀傑作選④ ストラヴィンスキー: 春の祭典  
収録曲: 幻想曲「火花」作品4 / 幻想的スケルツォ 作品3 / ロシア風スケルツォ / 葬送の歌 作品5 / ハレエ「春の祭典」



### 近日発売予定

- 20世紀傑作選⑤ メシアン: トゥーランガリラ交響曲

## レパートリーの拡大

——この7年間でN響にもたらされた変化としては、レパートリーの広がりが挙げられます。首席指揮者就任のうちにN響の響きの特性とドイツ音楽の伝統を見てとり、R. シュトラウスやマーラー、ブルックナーにまず集中的に取り組まれましたね。そこへ独自の色彩が次々に加えられていきました。ニルセン、シベリウス、グリーグなどの北欧音楽や、ベルトやトゥールといった故郷エストニアの作曲家の作品、子どものころから親しんだというショスタコーヴィチやプロコフィエフ、ラフマニノフ、そしてストラヴィンスキーといった20世紀のロシア音楽、こうした幅広い多彩なレパートリーを展開することでN響の新しい魅力を聴衆に見せてくれました。

私が声を大にして言いたいことは、このオーケストラには限界がないということです。お世辞ではなく、本心から世界有数のオーケストラだと思っています。幅広いレパートリーを表現するだけの技術と音楽性を有していると知っているからこそ、多彩な楽曲に積極的に取り組みました。N響の実力は、単に演奏できるというレベルではなく、音楽の本質を表現する力量が十分にあるのです。2021年6月に取りあげたニルセン《交響曲第4番》の質の高さといったら、あれだけ威厳のある、卓越した名技性をもって演奏できるオーケストラは北欧であっても数少ないと思います。

私が幅広いレパートリーを推進したのにはもうひとつ理由があります。21世紀のオーケストラにとって、万人受けのする不朽の名曲だけを演奏するのでは、芸術家としての務めを果たしたとは言えず、もう一段上の高みに到達することは不可能です。それゆえに、コンサートもレコーディングも、ときに芸術的な観点から、チャ

私の務めは、  
聴衆を新しい世界に  
招き入れること

レンジングな楽曲も取りあげるようにしました。ストラヴィンスキーやバルトーク、シベリウスの、あまり知られていない作品や、メシアン《トゥランガリラ交響曲》、ニルセンといった作曲家の作品がそれです。

結果的にそれは聴衆にとっても良い機会になったのではないのでしょうか。ニルセンの交響曲を一度聴けば——それも生演奏で聴けば——その魅力にとりつかれるはずなのです。私の務めは、少しだけ扉を開けて、「どうぞ中を覗いてみてください。楽しい世界が待っているかもしれないよ」と聴衆を新しい世界に招き入れることだと考えています。そうやって渋々足を踏み入れた人がその作曲家の大ファンになることだってよくあることなのです。

——2017年9月にはモーツァルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》、2018年3月に《ウエスト・サイド・ストーリー》、2018年9月にシベリウス《クレルヴォ》、2019年8月にベートーヴェンのオペラ《フィデリオ》といった声楽曲も演奏し、聴衆を大いに楽しませました。

声楽曲を演奏することは、オーケストラにとってはより一層の柔軟性が求められるため、成長を促す貴重な経験になったと思います。



龍角散 presents N響スペシャル モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」  
(演奏会形式) (2017年9月11日、横浜みなとみらいホール)

探究心を抱くこと、好奇心をもって挑戦することの楽しさに誘導することは、オーケストラにとっても聴衆にとってもいい機会になったと信じています。多種多様なレパートリーを演奏することで技術や音楽性も向上し、より説得力のある演奏が可能になります。この7年間でN響の柔軟性を高めることには大きく貢献できたのではないかと思います。

## 在任最後の公演、そしてこれから

——2022年2月の定期公演のBプログラムは首席指揮者として最後の指揮台に立つことになります。イギリス&アメリカ・プログラムに込めた思いを、そしてこれからのN響との関係性についてお聞かせください。

挑戦する意欲を持ち、幅広いプログラムを取り上げてきたつもりですが、ドイツ・ロマン派に重きが置かれたことは確かです。それをしっかりと完結させたいという思いでA・Cプログラムは組みました〔註〕。

そしてBプログラムについては、これまでの演奏曲目を調べてN響と一度も演奏していないのがイギリスの音楽だとわかり、そこで少し



©Lorraine Wauters  
N響ヨーロッパ公演2020 ツアーの最終地、ブリュッセルで  
(2020年3月4日、パレ・デ・ボザール)

異質のもので締めくりたいと考えて、ブリテン、エルガーの作品を選びました。楽曲そのものは異質どころかイギリスを代表する傑出した音楽ばかりです。在任最後のコンサートで新鮮味のある趣向で締めくくるという私なりの挑戦です。

それは、首席指揮者の座を去ったあとにN響との新たな関係性が芽生えるのを期待している証しでもあります。これまでいくつものオー

ケストラの音楽監督や首席指揮者を務めてきました。その経験から言えることは、そうしたオーケストラは自分にとって特別な存在であり続けるということです。常に繋がっているような、ある種の責任のような、特別な思いを抱き続けます。N響ともきつといつまでもそんな関係が続くにちがいません。

インタビューは2021年9月、フィルハーモニー編集部により行われました。本記事はNHK交響楽団響ホームページにおいて2021年12月24日に公開された記事「SPOTLIGHT N響とつくりあげたもの」に一部加筆したものです。

[nhkso.or.jp/news/20211224.html](http://nhkso.or.jp/news/20211224.html)

#### 註

2月定期公演A・Cプログラムは、外国人の新規入国制限により、パーヴォ・ヤルヴィの招聘は断念せざるを得ませんでした。当初は以下のプログラムを予定していました。

#### 第1951回 定期公演 池袋Aプログラム

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

シューマン／交響曲 第2番 ハ長調 作品61

ピアノ:イゴール・レヴィット

#### 第1952回 定期公演 池袋Cプログラム

R. シュトラウス／バレエ音楽「ヨセフの伝説」から交響的断章

R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

#### 第1953回

定期公演

# B

プログラム

2022年2月16日 水

2022年2月17日 木

開場 6:20pm  
開演 7:00pm

サントリーホール

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—4つの海の間奏曲 作品33a

パーマー／ヴァイオリン協奏曲 作品14

エルガー／変奏曲「謎」作品36

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ

ヴァイオリン:ヒラリー・ハーン

パーヴォ・ヤルヴィの指揮するBプログラム詳細は p.18をご覧ください



1. 2021年6月公演サントリーホールでの終演後、鳴りやまない拍手に応じて(2021年6月16日)
2. N響ヨーロッパ公演2020ツアー、タリンでのリハーサル(2020年2月22日)
3. N響との最初のレコーディング「R. シュトラウス: 英雄の生涯&ドン・ファン」のマスターを試聴(2015年2月)
4. N響首席指揮者就任を記者発表後、東京をめぐり、浅草寺を見物(2015年2月)
5. マラー《交響曲第4番》のリハーサル(2018年9月、N響演奏所)
6. N響ヨーロッパ公演2020ツアー、ロンドン公演(2020年2月24日)
7. 2021年9月特別公演と定期公演のために来日(2021年9月4日、N響演奏所指揮者室)



# 首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィとNHK交響楽団、共演の記録 (2015年9月~2022年2月)

## 定期公演

### Aプログラム | NHKホール

#### 2015

- 第1817回  
10/3(土)、4(日)  
・マーラー/交響曲 第2番「復活」  
・ソプラノ:エリン・ウォール  
・アルト:リリ・バーシキヴィ  
・合唱:東京音楽大学

#### 2016

- 第1829回  
2/6(土)、7(日)  
・マーラー/亡き子をしのぶ歌\*  
・ブルックナー/交響曲 第5番  
(ヴァーグ版)  
・パルトン:マティアス・ゲルネ\*

#### 第1842回

- 9/24(土)、25(日)  
・モーツァルト/ピアノ協奏曲 第27番  
・ブルックナー/交響曲 第2番  
(キャラガ版/1877年稿)  
・ピアノ:ラルス・フォークト

#### 2017

- 第1856回  
2/11(土)、12(日)  
・ペルト/シルエット—ギュスターヴ・エッフェルへのオマージュ[日本初演]  
・トゥール/アコーディオンと管弦楽のための「プロフェシー」[日本初演]  
・シベリウス/交響曲 第2番  
・アコーディオン:クセニア・シドロヴァ

#### 第1862回

- 6/24(土)、25(日)  
・デュティユー/メタボール  
・サン・サーンス/ピアノ協奏曲 第2番  
・ラヴェル/優雅で感傷的なワルツ  
・ラヴェル/「ダフニスとクロエ」組曲 第2番  
・ピアノ:河村尚子

- 第1864回  
9/16(土)17(日)  
・ショスタコーヴィチ/交響曲 第7番  
「レニングラード」

#### 2018

- 第1879回  
2/10(土)、11(日)  
・マーラー/交響曲 第7番「夜の歌」

#### 第1885回

- 5/12(土)、13(日)  
・ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲  
・シベリウス/交響詩「4つの伝説」  
・ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ

#### 第1891回

- 9/15(土)、16(日)  
・ヨハン・シュトラウスII世/喜歌劇「こもり序曲」  
・ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「南国のぼら」  
・ヨハン・シュトラウスII世/ポルカ「クラップフェンの森で」  
・ヨハン・シュトラウスII世/皇帝円舞曲  
・ヨーゼフ・シュトラウス/ワルツ「うわごと」  
・マーラー/交響曲 第4番\*  
・ソプラノ:アンナ・リヒター\*

#### 2019

- 第1906回  
2/9(土)、10(日)  
・R. シュトラウス/ヴァイオリン協奏曲  
・ハンス・ロット/交響曲 第1番  
・ヴァイオリン:アリョーナ・バーエフ

#### 第1915回

- 6/8(土)、9(日)  
・マーラー/こどもの不思議な角笛\*  
・ニルセン/交響曲 第2番「4つの気質」  
・パルトン:マティアス・ゲルネ\*

#### 第1918回

- 9/14(土)、15(日)  
・パヴェリッチ/弦楽オーケストラのための協奏曲  
・ヴァニヤフスキー/ヴァイオリン協奏曲 第2番  
・ルトスワフスキ/小組曲  
・ルトスワフスキ/管弦楽のための協奏曲  
・ヴァイオリン:ジュシア・ペル

#### 2020

#### 第1935回

- 2/15(土)、16(日)  
・アブラハムセン/ホルン協奏曲[日本初演]  
・ブルックナー/交響曲 第7番  
・ホルン:シュテファン・ドール

### Bプログラム | サントリーホール

#### 2015

#### 第1818回

- 10/14(水)、15(木)  
・R. シュトラウス/交響詩「ドン・キホーテ」\*  
・R. シュトラウス/交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」  
・R. シュトラウス/歌劇「ばらの騎士」:組曲  
「チェロトルルス-モルク」\*  
・ヴィオラ:佐々木 亮\*

#### 2016

- 第1831回  
2/17(木)、18(木)  
・R. シュトラウス/変容  
・シューマン/ピアノ協奏曲  
・R. シュトラウス/交響詩「ツァイトシュトラはこう語った」  
・ピアノ:カティア・プリニアティンヴィリ

#### 第1841回

- 9/14(水)、15(木)  
・ムソルグスキー/交響詩「ばけ山の一夜」(原典版)  
・武満 徹/「ア・ウェイ・ア・ローンII」  
・武満 徹/「ハウ・スロー・ザ・ウインド」  
・ムソルグスキー(ヨムスキー-コルサコフ編)/歌劇「ホヴァンシチナ」—第4幕 第2場への間奏曲「ゴリツァン公の流刑」  
・ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」

#### 2017

- 第1866回  
9/27(水)、28(木)  
・バルトーク/弦楽のためのデヴィェルティメント  
・バルトーク/舞踊組曲  
・バルトーク/弦楽器、打楽器、チェレスタのための音楽

#### 2018

- 第1881回  
2/21(水)、22(木)  
・武満 徹/ノスタルジア—アランドレイトタル

- コフスキーの追憶に\*  
・武満 徹/遠い呼び声の彼方へ\*  
・ワグナー/楽劇「ニーベルングの指環」管弦楽曲集  
・ヴァイオリン:諏訪内晶子\*

#### 第1887回

- 5/23(水)、24(木)  
・ストラヴィンスキー/バレエ音楽「ミュージアの神を率いるアポロ」  
・ストラヴィンスキー/バレエ音楽「カルタ遊び」  
・ストラヴィンスキー/3楽章の交響曲

#### 第1893回

- 9/26(木)、27(木)  
・シューベルト/交響曲 第3番  
・R. シュトラウス/ホルン協奏曲 第2番  
・ベートーヴェン/プロメテウスの創造物序曲  
・ハイドン/交響曲 第102番  
・ホルン:ラデク・パボラーク

#### 2019

- 第1908回  
2/20(水)、21(木)  
・ストラヴィンスキー/幻想曲「火花」  
・ストラヴィンスキー/幻想的スケルツォ  
・ストラヴィンスキー/ロシア風スケルツォ  
・ストラヴィンスキー/葬送の歌  
・ストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」

#### 第1917回

- 6/19(水)、20(木)  
・メシアン/トランガリア交響曲  
・ピアノ:ロジェム・ラロ  
・オンド:マルト・シシニア・ミラー

#### 第1920回

- 9/25(水)、26(木)  
・トゥール/ルーツを求めて〜シベリウスをたたえて〜  
・ニルセン/フルト協奏曲  
・シベリウス/交響曲 第6番  
・シベリウス/交響曲 第7番  
・フルート:エマニュエル・バユ

#### 2020

- 第1934回  
2/5(水)、6(木)  
・プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番  
・ラフマニノフ/交響曲 第2番  
・ヴァイオリン:レティシア・モレノ

## Cプログラム | NHKホール

### 2015

#### 第1819回

- 10/23(金)、24(土)  
・トール/アデトス  
・ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲 第1番  
・バルトーク/管弦楽のための協奏曲  
・ヴァイオリン:五嶋みどり

### 2016

#### 第1830回

- 2/12(金)、13(土)  
・ブラームス/ヴァイオリン協奏曲  
・ニルゼン/交響曲 第5番  
・ヴァイオリン:ジャンヌ・ヤンセン

#### 第1843回

- 9/30(金)、10/1(土)  
・プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第2番  
・ラフマニノフ/交響曲 第3番  
・ピアノ:デニス・マトソエフ

### 2017

#### 第1857回

- 2/17(金)、18(土)  
・シベリウス/ヴァイオリン協奏曲  
・ショスタコーヴィチ/交響曲 第10番  
・ヴァイオリン:諏訪内晶子

#### 第1863回

- 6/30(金)、7/1(土)  
・シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲  
・シューマン/チェロ協奏曲  
・シューベルト/交響曲 第8番  
「ザ・グレート」  
・チェロ:ターニャテツラフ

#### 第1865回

- 9/22(金)、23(土)  
・グリンカ/幻想的ワルツ  
・ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第4番  
(1941年版)  
・スクリャービン/交響曲 第2番  
・ピアノ:デニス・コジュヒン

### 2018

#### 第1880回

- 2/16(金)、17(土)  
・デュリュヴレ/3つの舞曲  
・サン・サーンス/ヴァイオリン協奏曲 第3番  
・フォーレ/レクイエム  
・ヴァイオリン:樫本大進  
・ソプラノ:市原 愛

- ・バルーン:甲斐栄次郎(16日)、  
青山 真(17日)  
・合唱:東京混声合唱団

#### 第1886回

- 5/18(金)、19(土)  
・トルミス/序曲 第2番  
・ショスタコーヴィチ/ピアノ協奏曲 第2番  
・ブルックナー/交響曲 第1番  
(1866年ワグネル編/ワグナー版)  
・ピアノ:アレクサンドル・トルラーゼ

#### 第1892回

- 9/21(金)、22(土)  
・シベリウス/レンミンギネンの歌  
・シベリウス/サンデルス  
・シベリウス/交響詩「ファンランディア」(男声合唱付き)  
・シベリウス/クレルヴォ\*  
・ソプラノ:ヨハンナ・ルサネン\*  
・バルーン:ヴァイレル・サネン\*  
・男声合唱:エストニア国立男声合唱団

### 2019

#### 第1907回

- 2/15(金)、16(土)  
・ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番  
・プロコフィエフ/交響曲 第6番  
・ピアノ:アレクサンダー・ガヴリリュク

#### 第1916回

- 6/14(金)、15(土)  
・パッパ(ウーベルン編)/リチェルカータ  
・ベルク/ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出のために」  
・ブルックナー/交響曲 第3番  
(第3編/1889)  
・ヴァイオリン:キル・シャハム

#### 第1919回

- 9/20(金)、21(土)  
・R. シュトラウス/歌劇「カプリッチョ」から「最後の場」\*  
・マラー/交響曲 第5番  
・ソプラノ:ヴァレンティーナ・ファルカシュ\*

### 2021

#### 第1936回(池袋Cプロ/東京芸術劇場)

- 9/10(金)、11(土)  
・バルトーク/組曲「中国の不思議な夜人」  
・バルトーク/管弦楽のための協奏曲

## 特別公演

### 2015

#### NHK音楽祭2015

- 10/8(木)  
NHKホール  
・ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲  
・ラヴェル/ピアノ協奏曲  
・ベルリオーズ/幻想交響曲  
・ピアノ:ジャン・イヴ・ティボーデ

#### ベートーヴェン「第9」演奏会

- 12/22(火)、23(水)、25(金)、26(土)  
NHKホール  
・ベートーヴェン/交響曲 第9番「合唱つき」

- ・ソプラノ:森 麻季  
・メゾソプラノ:加納悦子  
・テノール:福井 敬  
・バルーン:妻屋秀和  
・合唱:国立音楽大学

#### かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

### 12/27(日)

- サントリーホール  
・パッパ(ラフマニノフ編)/無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番から「ガヴォット」\*  
・フラグ:天使のパン\*  
・ヴァイオリ:シヤコンヌ\*  
・ベートーヴェン/交響曲 第9番「合唱つき」  
・ヴァイオリン:篠崎史紀\*  
・オルガン:山口鏡純\*  
・ソプラノ:森 麻季  
・メゾソプラノ:加納悦子  
・テノール:福井 敬  
・バルーン:妻屋秀和  
・合唱:国立音楽大学

### 2016

#### N響90周年記念特別演奏会

- マラー「一千人の交響曲」  
9/8(木)  
NHKホール  
・マラー/交響曲 第8番「一千人の交響曲」  
・ソプラノ:エリン・ウォール、アンジェラ・ミード、クラウディア・ポイル  
・アルト:カタリナ・ダライマン、アンネリー・ペーボ  
・テノール:ミヒャエル・シャーデ  
・バルーン:ミヒャエル・ナジ  
・バス:アイン・ファンガー  
・合唱:新国立劇場合唱団、東友会合唱団  
・児童合唱:NHK東京児童合唱団

### 2017

#### N響横浜スペシャル

- パーヴォ・ヤルヴィ指揮  
マラー「悲劇的」  
2/22(水)、23(木)  
横浜みなとみらいホール  
・武満 徹/莖楽のためのレクイエム  
・マラー/交響曲 第6番「悲劇的」

#### NHK音楽祭2017

- 9/9(土)  
NHKホール  
・モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」  
(全2幕:演奏会形式・字幕つき)  
・ドン・ジョヴァンニ:ヴァイト・プリアンテ  
・騎士長:アレクサンドル・ツィム/リュク  
・ドン・アナ:アン・ジョージア・ジェマン  
・ドン・オッターヴィオ:ベルナルド・リセター  
・ドン・エルヴィラ:ローレン・フェイスン  
・レポルト:カール・ケテルセン  
・マゼット:久保和範  
・ツェルリ:ナ:三宅理恵  
・合唱:東京オペラシンガーズ

#### 龍角散 presents

- N響スペシャル  
モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」  
(全2幕:演奏会形式・字幕つき)  
9/11(月)  
横浜みなとみらいホール  
・曲目:出演者は9/9と同じ

### 2018

#### NHK音楽祭2018

- 10/1(月)  
NHKホール  
・ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲  
・オルフ/踊る牧神(日本初演)  
・オルフ/カルミナ・ブラーナ  
・ソプラノ:オルガ・ペレチッコ

- ・カウンターテナ:マックス・エマヌエル・ツェンチチ  
・バルーン:ベンジャミン・アッブル  
・合唱:新国立劇場合唱団  
・児童合唱:NHK東京児童合唱団

### 2021

#### NHK交響楽団 6月公演

- サントリーホール  
6/16(水)、17(木)  
サントリーホール  
・ペルト/スズマ(読楽合奏版)  
・シベリウス/ヴァイオリン協奏曲  
・ニルゼン/交響曲 第4番「不滅」  
・ヴァイオリン:青木尚佳

#### 明電舎 presents

- N響名曲コンサート2021  
9/6(月)  
サントリーホール  
・エネスコ/ルーマニア狂詩曲 第2番  
・チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲  
・サン・サーンス/交響曲 第3番  
・ヴァイオリン:服部百音

## 外国公演

### 2017 | ヨーロッパ公演2017

- 2/28(火)ベルリン・フィルハーモニー  
3/8(水)ケルン・フィルハーモニー  
・モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第3番  
・マラー/交響曲 第6番「悲劇的」  
・ヴァイオリン:ジャンヌ・ヤンセン

- 3/1(水)  
フィルハーモニー・ルクセンブルク  
3/2(木)フィルハーモニー・ドゥ・ワッパリ  
3/4(土)コセルトヘボン  
3/7(火)ウィーン・コンツェルトハウス  
・シベリウス/ヴァイオリン協奏曲  
・ショスタコーヴィチ/交響曲 第10番  
・ヴァイオリン:ジャンヌ・ヤンセン

- 3/6(月)  
ロイヤル・フェスティヴァル・ホール  
・武満 徹/莖楽のためのレクイエム  
・マラー/交響曲 第6番「悲劇的」

### 2019

- 香港アート・フェスティバル  
2/28(木)  
香港文化センター  
・武満 徹/ハウ・スロー・ザ・ウィンド  
・ラヴェル/ピアノ協奏曲  
・プロコフィエフ/交響曲 第6番  
・ピアノ:チャン・ソクオ

### 2020 | ヨーロッパ公演2020

- 2/22(土)エストニア・コンサート・ホール  
2/28(金)ケルン・フィルハーモニー  
2/29(土)コンツェルトハウス・ドホルムント  
・武満 徹/ハウ・スロー・ザ・ウィンド  
・シューマン/チェロ協奏曲  
・ブルックナー/交響曲 第7番  
・チェロ:ヨルン・ガバタ

2/24(月)  
ロイヤル・フェスティヴァル・ホール  
3/2(月)コンセルトヘボウ  
・武満 徹 / ハウスロー・ザ・ウインド  
・シューマン / チェロ協奏曲  
・ラフマニノフ / 交響曲 第2番  
・チェロ:ソル・ガベッタ

2/25(火)フィルハーモニー・ドゥ・パリ  
2/27(木)ウーエン・コンツェルトハウス  
3/3(火)ベルリン・フィルハーモニー  
・武満 徹 / ハウスロー・ザ・ウインド  
・ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第3番  
・ブルクナー / 交響曲 第7番  
・ピアノ:カティア・ブニアティンヴィリ

3/4(水)パレ・デ・ボザール  
・武満 徹 / ハウスロー・ザ・ウインド  
・ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第3番  
・ラフマニノフ / 交響曲 第2番  
・ピアノ:カティア・ブニアティンヴィリ

## 各地の公演

### 2015

いわき定期演奏会

10/17(土)

いわき芸術文化交流館アリオス

- ・R. シュトラウス / 交響詩「ドン・キホーテ」\*
- ・R. シュトラウス / 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
- ・R. シュトラウス / 歌劇「ばらの騎士」組曲
- ・チェロ:トレルス・モルク\*
- ・ヴァイオリン:佐々木 亮\*

### 2016

大阪公演

2/20(土)

NHK大阪ホール

- ・R. シュトラウス / 交響曲 第2番
- ・シューマン / ピアノ協奏曲
- ・R. シュトラウス / 交響詩「ツァラトゥストラはこう語った」
- ・ピアノ:カティア・ブニアティンヴィリ

バーヴォ・ヤルヴィ指揮 N響 特別演奏会

2/21(日)

アークス福岡

・曲目:出演者は2/20と同じ

バーヴォ・ヤルヴィ&NHK交響楽団

9/17(土)

東京芸術劇場

- ・ムソルグスキー / 交響詩「はげ山の一夜」(原典版)
- ・武満 徹 / 「ア・ウエイ・ア・ローン II
- ・武満 徹 / ハウスロー・ザ・ウインド
- ・ムソルグスキー(リムスキー=コルサコフ編) / 歌劇「ホヴァンシチナ」—第4幕 第2場への間奏曲「ゴリツィン公の流刑」
- ・ムソルグスキー(ラヴェル編) / 組曲「展覧会の絵」

首席指揮者就任記念 バーヴォ・ヤル

ヴィ指揮 NHK交響楽団

9/18(日)

ハーモニーホールふくい(福井県立音楽

堂)

・曲目:出演者は9/17と同じ

N響90周年 & サントリーホール30周年  
バーヴォ・ヤルヴィ指揮 NHK交響楽団

特別公演

10/6(木)

サントリーホール

- ・マラー / 交響曲 第3番
- ・メゾソプラノ:シジェル・デヤング
- ・合唱:東京音楽大学合唱団
- ・児童合唱:NHK東京児童合唱団

### 2018

レナード・バーンスタイン生誕100周年

記念

バーヴォ・ヤルヴィ&N響「ウエスト・サイド・ストーリー」(演奏会形式)

～シンフォニー・コンサート版(原語上演・字幕付き)～

3/4(日)、6(火)

Bunkamura オーチャードホール

- ・バーンスタイン / ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」(演奏会形式)
- ・マリア:ジュリア・フロック
- ・トニー:ライアン・シルヴァーマン
- ・アニータ:アマダ・リン・ホトムス
- ・リフ:ティモシー・マクデヴィット
- ・ベルナルド:ケリー・マークグラフ
- ・アクシオン:ザカリー・ジェイムズ
- ・A-ガール:アビゲイル・サントス・ヴィアロボス
- ・ロザリア:竹下みず穂
- ・フランススカ:菊地美奈
- ・コンスエロ:田村由貴絵
- ・ディゼル:平山トオル
- ・ペビー:ジョン・岡本泰寛
- ・A-ラブ:柴山秀明
- ・ジェッツ / シャークス:東京オペラランガーズ
- ・ガールズ:新国立劇場合唱団

### 2019

NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

2/24(日)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

- ・ストラヴィンスキー / 幻想曲「花火」
- ・ストラヴィンスキー / 幻想的スケルツォ
- ・ストラヴィンスキー / ロシア風スケルツォ
- ・ストラヴィンスキー / 葬送の歌
- ・ストラヴィンスキー / パレエ音楽「春の祭典」

第104回 オーチャード定期

6/22(土)

Bunkamura オーチャードホール

- ・メシアン / トランガリア交響曲
- ・ピアノ:ロジェムラロ
- ・オンド:マルト:シンシア・ミラー

Bunkamura 30周年記念

龍角散 presents

バーヴォ・ヤルヴィ&N響

ベートーヴェン生誕250周年記念

オペラ「フィデリオ」(演奏会形式)

8/29(木)、9/1(日)

Bunkamura オーチャードホール

- ・ベートーヴェン / 歌劇「フィデリオ」(演奏会形式)
- ・レオノーレ:アドリアンヌ・ピエションカ
- ・フロレスタン:ミヒャエル・シャーデ
- ・ロココ:フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ
- ・ドン・ピツァロ:ヴォルフガング・コッホ
- ・マルツォリーネ:モイファ・エルトマン

- ・ヤキーノ:鈴木 准
- ・ドン・フェルナンド:大西宇宙
- ・第1の囚人:中川誠宏
- ・第2の囚人:金子 宏
- ・合唱:新国立劇場合唱団

9/5(木)三重県文化会館

9/6(金)豊田コンサートホール

9/7(土)ハーモニーホールふくい(福井県立音楽堂)

9/8(日)オーバード・ホール

- ・チャイコフスキー / 幻想曲「フランチェスカ・リミニ」
- ・ブルッフ / ヴァイオリン協奏曲 第1番
- ・チャイコフスキー / 交響曲 第2番
- ・ヴァイオリン:川久保昭紀

### 2020

高崎芸術劇場開館記念

バーヴォ・ヤルヴィ&NHK交響楽団 高

崎公演

2/8(土)

高崎芸術劇場

- ・プロコフィエフ / ヴァイオリン協奏曲 第1番
- ・ラフマニノフ / 交響曲 第2番
- ・ヴァイオリン:レティシア・モレノ

NHK交響楽団 郡山公演

2/9(日)

けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター)

・曲目:出演者は2/8と同じ

PROGRAM

池袋

A

第1951回

東京芸術劇場

2/5 土 6:00pm

2/6 日 2:00pm

指揮

下野竜也

ピアノ

小林愛実

コンサートマスター

白井 圭

シューマン

序曲、スケルツォとフィナーレ 作品52—  
「序曲」[7']

シューマン

ピアノ協奏曲 イ短調 作品54[31']

I アレグロ・アフエットウオーソ

II 間奏曲:アンダンティーノ・グラチオーソ

III アレグロ・ヴィヴァーチェ

— 休憩(20分) —

シューマン

交響曲 第2番 ハ長調 作品61[38']

I ソステヌート・アッサイーアレグロ・マ・ノン・ト  
ロッポII スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェ—  
トリオI、II

III アダージョ・エスプレッシーヴォ

IV アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

※ 当初予定の出演者・曲目から変更になりました。

後援:豊島区

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます


<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## Artist Profiles

## 下野竜也(指揮)



©Takaya Yamanashi Studio (DJV)

1969年、鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科卒業。その後、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室、シエナのギジアーナ音楽院、ウィーン国立音楽大学で学ぶ。2000年、東京国際音楽コンクール(指揮)で第1位。2001年、ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。読売日本交響楽団正指揮者を務めたほか、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団など海外のオーケストラにも客演。現在、広島交響楽団音楽総監督、広島ウインドオーケストラ音楽監督を務め、京都市立芸術大学教授として後進の指導にもあたる。

NHK交響楽団とは、2005年以來、定期的に共演を重ねている。2021年、N響の発展に顕著な功績を収めた者に贈られる「有馬賞」を受賞。NHK大河ドラマでは『鎌倉殿の13人』など6作品のテーマ音楽でN響を指揮。N響とのシューマンの交響曲は、2020年9月の《第4番》、2021年2月の《第3番「ライン」》に続いての演奏となる。

[山田治生／音楽評論家]

## 小林愛実(ピアノ)



©Mikiko Nakagawa

2021年10月、「第18回ショパン国際ピアノ・コンクール」第4位入賞。3歳からピアノを始め7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。2005年(9歳)以降、ニューヨークのカーネギー・ホールに4度出演、パリ、モスクワ、ポーランド、ブラジル等に招かれる。ポーランドには、「ショパンとヨーロッパ」国際音楽祭ほか、協奏曲のソリストとして度々招かれている。2010年ショパン生誕200年記念に際して、ポーランド政府より「ショパン・パスポート」を授与された。

2017年には、モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団の日本ツアーでソリストとして迎えられ、ラフマニノフの《ピアノ協奏曲第2番》を共演。2020年には、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団とリストの《ピアノ協奏曲第1番》を共演して好評を博した。

国内でも多数のオーケストラと共演し、サントリーホールをはじめ各地でもリサイタルを行い、高い評価を得ている。今、世界的な活躍が期待できる日本の若手ピアニストとして注目を集めている。

N響との共演は、2016年、2017年に続き3度目。

1845～1846年、ローベルト・シューマン(1810～1856)は本日の演目3曲を今日の姿に完成させた。のちにさらなる悲劇に至る彼の鬱病<sup>うつ病</sup>はすでに始まっており、それゆえとりわけ《交響曲第2番》の作曲の歩みは遅々としたものであった。そうした伝記的事実から、困難のさなかにあつての希望をそこに聴き取ることもできる。けれどもこれら3曲には、オーケストラ音楽の彼の理想がそれぞれ実現している。35～36歳のシューマンの、創作上の充実期を証する作品群と言えよう。

シューマン

## 序曲、スケルツォとフィナーレ 作品52—「序曲」

1841年12月6日にライブツィヒで初演された《序曲、スケルツォとフィナーレ》について『新・音楽時報』誌は次のように報じている。「序曲のいくつかの動機が他の楽章で完全に再現してひとつの全体を形作り、他方で各楽章はそれぞれ完結しているので個別にさまざまな状況にあわせて演奏できる」(12月21日号)。評者が考えていたのは、たとえば序曲(アンダンテ・コン・モト、ホ短調、4/4拍子)のアレグロ部分(アレグロ、ホ長調、2/2拍子)の冒頭モチーフがスケルツォのコーダ部分で回帰することだっただろう。こうしていくつかの動機が、フィナーレを含む3つの楽章を結びつける。その一方で、たとえば4手編曲版(1847年刊)の表紙からは各楽章が個別に購入可能だったことがわかる。全体の統一感を備えつつ各部分が独立している……かの批評はこの作品の特色を作曲者に代わって説明し、この曲を擁護するものであった。

1841年はシューマンの「交響曲の年」として知られる。この年に彼は、この曲を含めて4曲のシンフォニックな作品を手がけた。しかしニ短調の作品はようやく1851年に現在の《交響曲第4番》となるものだし、ハ長調の作品は結局全楽章揃わなかった。したがってこの年の諸作品のうち《交響曲第1番「春」》が、「わずか4日間でスケッチされた」というドラマチックなエピソードとともに、この作曲家の「交響曲への道」の里程碑としてクローズアップされるのは当然である。しかしこの《序曲、スケルツォとフィナーレ》は、本日演奏される《ピアノ協奏曲 イ短調》の第1楽章とともに1841年の、そして1845～1846年のシューマンの充実を知る鍵となる作品である。彼はオーケストラ曲の全体と部分の関係についてさまざまに試行していた。

なお《序曲、スケルツォとフィナーレ》は上記初演を経て、おもにフィナーレが改訂されて1845年までに現在の姿となり、翌1846年10月にパート譜がライブツィヒで出版された。

作曲年代	1841年、1844～1845年改訂
初演	1841年12月6日、ライブツィヒ [改訂稿] 1845年12月4日、ドレスデン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

## シューマン

## ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

シューマンの代表作のひとつで、ピアノ協奏曲の歴史においてフランツ・リストの2作品とともに19世紀前半の展開を総括する重要な作品である。

このジャンルの代表作が完成するまでのシューマンの道のりは、交響曲の場合と同様に長かった。すでに1827年からピアノ協奏曲を試作していたが、同年生まれのフレデリック・フランソワ・ショパンが1830年までに2曲完成したのに対して、シューマンの「研究」はさらに続く。1833年からはクララ・ヴィークが《ピアノ協奏曲》に取り組む。未来の妻の作品7は1835年に初演され、1837年に出版に至るが、このイ短調(!)の作品にシューマンは助言し続けた。1836年からは、自ら1834年に創刊した『新・音楽時報』誌で同時代のピアノ協奏曲の批評を展開。そして1841年、のちに作品54の第1楽章になったと考えられる《幻想曲》が成立、これが1845年に3楽章構成に拡大されて《ピアノ協奏曲 イ短調》となり、クララによって初演され、翌1846年にライブツィヒでパート譜が公刊された(スコアは1862年刊)。「ピアノ協奏曲への道」は、常にクララという同伴者との共同作業であった。

この作品と本日演奏される《序曲、スケルツォとフィナーレ》作品52とは、どちらも1841年に最初の姿を現し、1845年の同じ演奏会で基本的に今日のかたちで初演された。興味深いのは1841年の《幻想曲》つまりのちの第1楽章(アレグロ・アフエットゥオーソ、イ短調、4/4拍子)の展開部が「アンダンテ」となっていることである。それは動機的に楽章全体に結びつけられてはいるが、主要部分とは異なるテンポと性格なので、短い緩徐楽章の挿入とも見える。シューマンはここでも、作品52と同様、ゆるやかに連携する諸部分と全体との関係を模索している。1845年に拡大された第2楽章(間奏曲:アンダンティーノ・グラチオーソ、ヘ長調、2/4拍子)と第3楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ、イ長調、3/4拍子)の間は、第1楽章の主要動機で結ばれる。

作曲年代	1841、1845年、1853年改訂
初演	1845年12月4日、ドレスデン
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

シューマン

## 交響曲 第2番 ハ長調 作品61

シューマンは1845～1846年に第3の(出版順では第2の)《交響曲》ハ長調作品61を完成させた。いわゆるニックネームがなく、ともすれば地味な存在に留まるこの交響曲は、近代とドイツ国家の成立、そして器楽が結び付いていく19世紀なかば、ロマン主義思潮のただなかにあったシューマンの創作を総括する記念碑的な作品である。

作曲の契機は、シューベルトの《交響曲》ハ長調の再演であった。約6年前のウィーンでこの曲は他ならぬシューマンによって発見され、1839年にライプツィヒでメンデルスゾーンの指揮で初演、1845年12月にドレスデンで再演された。ベートーヴェンの《第9》と前後して作曲され、のちには世紀後半にとりわけブルックナー作品にも共鳴するこのシューベルトの《大ハ長調》が、同じ調の、シューマンの総決算的な交響曲の創作を促したのである。明らかに精神的に不安定であったシューマンは、それが最後の大作となる可能性も意識したに違いない(結果的には後日第4の交響曲が完成する)。

冒頭楽章はゆるやかな導入部(ソステヌート・アッサイ)に急速な主部(アレグロ・マ・ノン・トロポ)が連なり、その後全曲を通じて、シューマンの創作を特徴づけてきた2つの音楽的キャラクター(快活なフロレスタンと理性的なオイゼビウス)が現れつつ進行する。第2楽章スケルツォ(アレグロ・ヴィヴァーチェ)では躍動的・フロレスタンの主部に対して思索的な第2トリオでバッハ(B-A-C-H)音型が現れる。バッハの音楽をシューマンが学んだ成果は続く第3楽章(ハ短調、アダージョ・エスプレッシヴォ)で、《音楽のささげもの》のトリオソナタの引用と往時の書法にも現れ、オイゼビウスの世界がさらに広がる。両者が融合に向かう終楽章(アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ)では第1楽章冒頭で聴かれたドーソ(つまりC-G)のファンファーレ音型が楽章末に向けて重要度を増すことで、ハイドンの最後のシンフォニー《第104番》も想起される。対位法書法が最後の交響曲(《第41番》)で決定的な役割を果たしたモーツァルトのことも思い出されよう。そして終楽章最終盤、ティンパニG音の長いロールと一瞬の静寂ののち、ベートーヴェンの《はるかな恋人に》第6曲冒頭、「さあ受け取ってくれ、これらの歌を」という部分の旋律がおだやかに現れる。

もちろんシューマンの作品でこの歌詞は歌われない。けれどもこの旋律はまず、彼の体調を見守ってきた妻クララへのメッセージであったはずだ。そしてそれは、この曲にドイツの音楽史を聴く人々、つまり私たちにも向けられている。

作品は、スウェーデン王およびノルウェー王オスカル1世に献呈された。

作曲年代	1845～1846年 [ピアノ4手連弾版]1848年
初演	1846年11月5日、ライプツィヒ、メンデルスゾーン指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

PROGRAM

B

第1953回

サントリーホール

2/16 水 7:00pm

2/17 木 7:00pm

指揮 パーヴォ・ヤルヴィ

ヴァイオリン ヒラリー・ハーン

コンサートマスター 白井 圭

### ブリテン

歌劇「ピーター・グライムズ」

—4つの海の間奏曲 作品33a [17']

- I 夜明け
- II 日曜の朝
- III 月の光
- IV 嵐

### バーバー

ヴァイオリン協奏曲 作品14 [25']

- I アレグロ・モデラート
- II アンダンテ
- III プレスト・イン・モート・ペルベトゥオ

—休憩(20分)—

### エルガー

変奏曲「謎」作品36 [30']

主題

- 第1変奏 (C. A. E.)
- 第2変奏 (H. D. S-P.)
- 第3変奏 (R. B. T.)
- 第4変奏 (W. M. B.)
- 第5変奏 (R. P. A.)
- 第6変奏 (イゾベル)
- 第7変奏 (トロイト)
- 第8変奏 (W. N.)
- 第9変奏 (ニムロッド)
- 第10変奏 間奏曲 (ドラベッラ)
- 第11変奏 (G. R. S.)
- 第12変奏 (B. G. N.)
- 第13変奏 ロマンس (\*\*\*)
- 第14変奏 終曲 (E. D. U.)

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

## パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)


©Kauppi/Kiiasa

7年間にわたってNHK交響楽団首席指揮者を務めてきたパーヴォ・ヤルヴィが今回、在任期間中最後のN響との共演に臨む。彼は2020年2月から3月にかけて、ロンドン、パリ、ウィーン、アムステルダム、ベルリンなど7か国9都市をめぐる、N響と2度目となるヨーロッパ公演を指揮して大成功を収めた。さらに同年6月、英『グラモフォン』誌が主催する「グラモフォン・クラシカル・ミュージック・アワード2020」にて、同ツアーや彼がN響を指揮した一連のレコーディングなどが高く評価され、N響が「オーケストラ・オブ・ザ・イヤー」にノミネートされるなど、N響の世界での存在感の向上に大きな役割を果たしている。

エストニアのタリン生まれ。現地で打楽器と指揮を学んだ後、アメリカのカーティス音楽院で研鑽を積み、バンスタインらに師事。シンシナティ交響楽団音楽監督、hr交響楽団首席指揮者、パリ管弦楽団音楽監督などを歴任。現在は、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団芸術監督、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団の音楽監督兼首席指揮者、自身が創設したエストニア祝祭管弦楽団芸術監督などを務める。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団などの名門オーケストラにも客演し、現代を代表する指揮者のひとりとして、世界で活躍している。

## ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン)


©Diana von Leewitz/Decca

現代最高峰のヴァイオリニスト、アメリカ出身のヒラリー・ハーンが、2005年5月以来、実に17年ぶりにNHK交響楽団の定期公演に帰ってくる。今回はパーヴォ・ヤルヴィとのプロコフィエフ《協奏曲第1番ニ長調》だった。今回は再評価の機運が著しいバーバーを弾く。

バージニア州レキシントン生まれのボルティモア育ち。フィラデルフィアのカーティス音楽院で、イザイおよびジンバリスト門下のヤッシャ・プロツキー、さらにハイメ・ラレードに師事した。

1991年以降、各国の主要オーケストラと相次いで共演。1996年にはカーネギー・ホールにデビューした。

協奏曲、ソナタ、委嘱作品、他ジャンルとの交歓を含めてレパートリーは広く、レコーディングも枚挙にいとまがない。近年は思いも新たにバッハの無伴奏曲に取り組み、彼女のために書かれたラウタヴァーラの遺作《2つのセレナード》(カレヴィ・アホ補筆)を世界初演。「100日間の練習」と題した動画を100日連続で配信した。いっぽう社会貢献活動にも熱心だ。2021/22年シーズン、ハーンはシカゴ交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスに迎えられている。

[奥田佳道／音楽評論家]

アメリカには、少なくとも10箇所以上の「ロンドン」があることをご存知だろうか。もちろん植民地時代の名残である。バーバーが育ったペンシルベニア州も、その命名はイングランド王チャールズ2世によるもの。こんなことから明らかなように、アメリカのクラシック音楽の根底には、ヨーロッパ大陸ではなく、イギリスという島国が横たわっている。旋法性の薄さや、五音音階への志向はその顕著なしるしだろう。本日のプログラムは、こうした繋がりについてあらためて考えさせてくれる。

## ブリテン

### 歌劇「ピーター・グライムズ」—4つの海の間奏曲 作品33a

村というのは都市よりもはるかに文化的な場所だ。暗黙のしきたりが何重にも人々を取り囲んでおり、誰もがそこから逸脱しないように、注意深くふるまわなければならない。

ベンジャミン・ブリテン(1913~1976)の《歌劇「ピーター・グライムズ」》の主人公は、こうした文化に馴染むことができない。「ならば村から出てしまえばいいのに……」。我々ならばそう考える。しかし、それは都会人の発想なのだ。ここで育ったピーターにとって「村の外」など存在しない。彼は広大な海という、いわば都市の代替物の中でなんとか呼吸をしながら、ぎりぎり生き延びているのである。

《4つの海の間奏曲》は、オペラから4つの間奏曲を抜き出したもの。まずは、第1曲〈夜明け〉(第1幕への間奏曲)に注意したい。この曲は冒頭であられる3つの要素からなっている。(a)高音のヴァイオリンとフルートのむせびなくような音型、(b)ヴィオラ、ハープ、クラリネットによる切り裂くような上下行、(c)金管楽器のコラール。これらから、カモメの鳴き声、冷たく波打つ夜明けの海、さびれた港町の風景が浮かんでくれば、そこにはもう《ピーター・グライムズ》の世界がひらけている。

第2曲〈日曜の朝〉(第2幕への間奏曲)では、ホルンの和音の上で木管の主題が跳ね回るが、これらは全体としてホ長調の全音階をクラスター(塊)にしたもの。第3曲〈月の光〉(第3幕への間奏曲)は、緩やかな海のたゆたい。ただし、時おりシロフォンとフルートが不穏な警笛のように響く。最後の第4曲〈嵐〉(第1幕2場への間奏曲)は、荒れ狂う海が拍子を細かく変えながら描写される。ブリテン版《春の祭典》だ。

作曲年代	1945年
初演	1945年6月13日、作曲家指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2、クラリネット2(Esクラリネット1)、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンディッド・シンバル、タム・タム、シロフォン、チューブラー・ベル、タンブリン、ハープ1、弦楽

## ヴァイオリン協奏曲 作品14

アメリカにはさまざまな音楽教育機関があるけれども「カーティス音楽院は特別」と語るアメリカ人は多い。錚々たる卒業生の顔ぶれはもちろんだが、徹底した少人数教育がどこか秘儀的な雰囲気<sup>そうつそうつ</sup>を湛<sup>たな</sup>えているあたりに、その理由があろう。

サミュエル・バーバー(1910~1981)の最初の幸運は、14歳の時、彼の住むペンシルベニアにたまたまこの学校が設立されたことだった。一期生となったバーバーは、作曲のロザリオ・スカレロ、指揮のフリッツ・ライナーといった面々から基礎を叩きこまれることになる。また、音楽院で同門だったジャン・カルロ・メノッティとは、その後生涯にわたってパートナーの関係を結ぶことになった。

当時、アメリカの若手作曲家にとっての王道コースは、フランスに留学してナディア・ブーランジェに学ぶというものだったが、バーバーがイタリア留学を選んだのは(もちろんアメリカ・ローマ賞を得たことが直接的なきっかけではあるものの)、恩師と親友がイタリア系だったことと無関係ではないだろう。「旋律の国」イタリアで、まさに彼は天性のメロディ・メーカーとしての才能を奔放に開花させる。

留学を経て、最初にものした大作が《ヴァイオリン協奏曲》である。着手したのは1939年、スイス滞在中だったが、しかし第2楽章まで仕上げた時点で、第2次世界大戦の影響からアメリカに帰国。結局、終楽章は母国で仕上げることになった。

面白いのは、こうした経緯を反映してか、第1、第2楽章と第3楽章がかなり異なったムードを持っていることだ。最初のふたつがいかにもバーバーらしい、豊かな旋律美に溢<sup>あふ</sup>れている一方で、終楽章では、時に無調的なパッセージが音楽を横切るのである。

第1楽章は、まず冒頭で独奏ヴァイオリンが主題を提示する。独奏とオーケストラの弦楽器群が2度の響きで重なるあたりが、ロマンティックな響きの秘密。ユニークなのは編成にピアノが入っていることで、この楽器は随所で重要な役割を果たす。6/4拍子による第2楽章は、しっとりとしたオーボエ独奏からはじまる。《弦楽のためのアダージョ》にまさるとも劣らない祈りの音楽。そしてティンパニの鼓動を独奏ヴァイオリンが受け取ると、第3楽章の幕が開く。無窮動なテーマは、わずか3小節でオクターブ内の11音を使い切るという無調的な響き。木管楽器の合いの手の複雑さも、バーバーらしからぬ凄みを湛えている。

作曲年代	1939年
初演	1941年2月7日、ユージン・オーマンディ指揮、フィラデルフィア管弦楽団、アルバート・スポールディング独奏
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、小太鼓、ピアノ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

## 変奏曲「謎」作品36

「謎は三つ、命はひとつ」といえば、プッチーニの《トゥーランドット》。一方、「謎は二つ、曲はひとつ」なのが、エドワード・エルガー(1857~1934)のこの作品だ。既に多くの方がご存知とは思いますが、謎の所在を復習しておこう。

作曲家によれば、14の変奏はそれぞれ友人たちの姿を描いている。各変奏にはインシヤルが付されているから対象人物はほぼ特定されているのだが、第13変奏だけは「\* \* \*」と単にアスタリスクが記されており、誰を指しているのか不明。そしてもうひとつ、作曲者は「楽曲全体の背後には演奏されない隠された主題」があるというが、この主題が何なのかが不明。いずれの謎も、答えには諸説あるものの、現在にいたるまで決定打はないはまだ。かくして、この曲は「謎(エニグマ)」という愛称で呼ばれることになったわけだが、しかし、実をいえば、謎なのはこの曲ばかりではない。たとえば彼の《ヴァイオリン協奏曲》の楽譜冒頭には「……の魂が埋め込まれている」という奇妙な言葉が記されている。いずれの曲の場合も、何か深い秘密があるのかもしれないが、あからさまに意味ありげな細工であることを考えれば、ごく他愛ないジョークなのかもしれない。

さて、なんだかモヤモヤする背景を持ち合わせているとはいえ、《謎》は掛け値なしに充実した作品だ。幅広い上下行を繰り返す主題が魅力的なのはもちろん、おそらくは友人を思い浮かべて描写したためなのだろう、何より、各変奏がはっきりとしたキャラクター(まさに「人格」)を持っている。しかも、それらがワーグナー／リヒャルト・シュトラウスのな豊潤を湛えたオーケストレーションで処理されるのだから、面白くならないわけがない。

曲はまず、短調で主題が提示される(この曲の正式タイトルは「創作主題による変奏曲」)。その後、妻アリスの名が与えられた清澄で美しい第1変奏、不穏で皮肉な第2変奏、のどかな第3変奏、激しい第4変奏という具合に、隣り合った変奏には、必ずはっきりと異なった性格が与えられている。半ばを過ぎた頃にあらわれるのが、有名な第9変奏〈ニムロッド〉。独立して演奏されることも多い叙情的な変奏だが、この変奏はもともと明確に主題の形を保持しており、全曲の中で特別な位置を占めている。

その後、チェロ独奏が含まれた第12変奏などを経て、全体のコーダにあたる第14変奏は、ついにエルガーの自画像。この曲で圧倒的に密度が濃い書法が採用されているあたりは、ちょっとずるい(?)気がしないでもない。

作曲年代	1899年
初演	1899年6月19日、ハンス・リヒター指揮による
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、小太鼓、トライアングル、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、オルガン(オプション)、弦楽

PROGRAM

池袋



第1952回

東京芸術劇場

2/11 金 祝 7:30pm

2/12 土 2:00pm

指揮

鈴木雅明

ピアノ

鈴木慎崇\*

コンサートマスター

篠崎史紀

〔開演前の室内楽(池袋Cプログラム限定)〕

11日(金・祝)6:45pm〜/12日(土)1:15pm〜

フルート: 梶川真歩 ヴィオラ: 中村翔太郎 ハープ: 早川りさこ

ドビュッシー/フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナター第1楽章「田園曲」、第3楽章「終曲」

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。 ※演奏中の客席への出入りは自由です。

## ストラヴィンスキー

### 組曲「プルチネッタ」[24']

I 序曲

II セレナード

III a)スケルチーノー b)アレグロー

c)アンダンティーノ

IV タランテラ

V トッカータ

VI ガヴォット

VII ヴィーヴォ

VIII a)メヌエットー b)終曲

## ストラヴィンスキー

### バレエ音楽「ペトルーシカ」(1947年版)\*

[34']

〔第1場〕謝肉祭の日—手品師の芸—

ロシアの踊り

〔第2場〕ペトルーシカの部屋

〔第3場〕ムーア人の部屋—バレリーナの踊り—

バレリーナとムーア人のワルツ

〔第4場〕謝肉祭の日の夕方—うばの踊り—

御者と別当の踊り—仮装した人々

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 当初予定の出演者・曲目から変更になりました。

後援：豊島区

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.or.jp/enquete.html>

## 鈴木雅明(指揮)



鈴木雅明に国際的な名声をもたらしたのは、まずそのバッハ演奏である。オルガンそしてチェンバロ奏者としてはもとより、1990年に結成した合唱団とピリオド楽器オーケストラからなる、「バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)」との活動は、1995年から18年がかりで完結した教会カンタータ全曲演奏および録音という壮業をはじめ、多くの実りを現代のバッハ演奏にもたらした。近年はBCJのほか海外のピリオド楽器オーケストラ、モダン楽器オーケストラとの共演も多く、ハイドンからマーラー、ストラヴィンスキーに至る幅広いレパートリーに新鮮なアプローチを聴かせている。これまでにニューヨーク・フィルハーモニック、ポストン交響楽団、デンマーク国立交響楽団、ベルリン・ドイツ管弦楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団などに客演。東京藝術大学作曲科および同大学院オルガン専攻で学び、アムステルダムスのスウェーリンク音楽院でトン・コープマンらに師事。東京藝術大学古楽科設立に携わり、2010年まで20年にわたり指導した。2001年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章、2011年紫綬褒章、2013年サントリー音楽賞(BCJと共に)など受賞多数。2021年にはBCJとのバッハ《ヨハネ受難曲》の3度目の録音が第59回レコード・アカデミー賞大賞銀賞を受賞した。2020年10月、N響の舞台に初めて立ち、ハイドン、モーツァルトからシューベルト、ベルワルドを経て、武満徹に至るまで、多彩なプログラムを指揮。2021年4月に再び登場し、ハイドン、モーツァルト、シューマンからなるプログラムを披露した。

[矢澤孝樹／音楽評論家]

## Program Notes | 岡田暁生

《ペトルーシカ》は第1次世界大戦前の、《プルチネッタ》は大戦後の作曲だ。どちらも主人公はピエロ。大戦によってイーゴリ・ストラヴィンスキー(1882~1971)は亡命者となり、作風は戦前の民族派モダニズムから新古典主義へ大きく変わった。だが道化への深い愛着が両作品を結ぶ。彼自身もまた自分のことを、音楽史を挑発し自在に戯れる道化者と感じていたのかもしれない。

### ストラヴィンスキー

## 組曲「プルチネッタ」

第1次世界大戦はストラヴィンスキーの生活を一変させた。ロシア革命により亡命を余儀なくされた彼は、ソ連が成立した1917年を生涯で最もみじめな年だったと自伝で回

想している。その1917年、革命直後の4月に彼はナポリ旅行をした。ディアギレフとマッシーヌとアンセルメとピカソという超豪華メンバーだ。古代遺跡とスラム街とコソ泥こんべきの海とレモンの花——爆発的な生命力に満ちたこの混沌こんとんの街への旅は、彼にとって生涯忘れ得ぬものとなった。

よほど楽しい旅だったのだろう。早速ディアギレフは18世紀ナポリを舞台とするバレエを構想し、ジョヴァンニ・バッティスタ・ペルゴレージの楽譜(中には偽作もあったが)の編曲をストラヴィンスキーに頼んだ。だがストラヴィンスキーが行ったのは単なるアレンジどころではない。「このうえなく独創的な編曲」という作曲技法の名人芸であった。多くの曲は優美そのもののナポリ・バロックのスタイルでアレンジされている。作曲者は巧みに「擬態」をしている。だが贋作がんさくの名手はところどころ、わかる人にはわかる目印を入れる。1曲目では一瞬変拍子が入り、不協和音がモンタージュされる。「ストラヴィンスキー作」という署名だ。トロンボーンがジャズ風グリッサンドを使う〈ヴィーヴォ〉のように、あからさまに「偽物」であることをアピールしたりもする。

プルチネッラはナポリの伝統的な仮面喜劇の定型役である。トレードマークの黒い仮面と真っ白の道化服はナポリの代名詞だ。街のいたるところで人形に出くわす。サッカーをするプルチネッラ、スパゲッティを食べるプルチネッラなど、なんでもあり。ボケたふりをして変幻自在に人をだます彼は、まさにストラヴィンスキーの編曲精神そのものだ。しかし〈終曲〉で彼はようやく仮面をとって素顔を見せる。《ペトルーシカ》に劣らぬ極彩色が爆発する。感動的な瞬間である。

作曲年代	[バレエ版] 1919～1920年
初演	[バレエ版] 1920年5月15日、エルネスト・アンセルメ指揮、ロシア・バレエ団、パリ・オペラ座 [組曲版] 1922年12月22日、ピエール・モントゥー指揮、ボストン交響楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット1、トロンボーン1、弦楽、独奏弦楽五重奏(第1ヴァイオリン1、第2ヴァイオリン1、ヴィオラ1、チェロ1、コントラバス1)

## ストラヴィンスキー

### バレエ音楽「ペトルーシカ」(1947年版)

ディアギレフ主宰のロシア・バレエ団は、年1回パリ公演をしていた。座付き作曲家としてストラヴィンスキーがそのために提供したのが、いわゆる三大バレエである。《火の鳥》で当たりをとった彼は《春の祭典》を構想したが行き詰まり、まずは《ペトルーシカ》を完成させた。自伝にいわく「突然吊紐つりひもを解かれた操り人形の姿がはっきり浮かんだ。人形はめまぐるしい悪魔のようなアルペジオでオーケストラの忍耐を逆なでし、オーケストラは威嚇いかくするファンファーレで応酬する」。ペトルーシカはロシア人なら誰でも知っている道化者であり、ストラヴィンスキーによれば「あらゆる緑日の永遠のヒーロー」、日本でいえば

太郎冠者<sup>かじや</sup>のようなものである。

幕が開くと縁日の日。人形遣いが登場して、ペトルーシカ、ムーア人、バレリーナの3体の人形に命を吹き込む。彼らは踊り出し、ペトルーシカはバレリーナに求愛し、しかしバレリーナはムーア人に夢中。ペトルーシカのぞっとする苦悶<sup>くもん</sup>が描かれたあと、再び縁日の場面に移る。その喧騒<sup>けんそう</sup>の中、ペトルーシカは喧嘩<sup>けんか</sup>でムーア人に殴り殺され、バラバラにされる。たかが人形と人々は思うも、最後にペトルーシカの幽霊が現れて、ぞっとする幕切れとなる。

このストーリーのポイントは、ペトルーシカが人形だという点である。彼は人間なのか人形なのか？ ストラヴィンスキーはこの曖昧<sup>あいまい</sup>さを、あらゆる楽器の中で最も「マシーン」に近いピアノを使って表現する。作品を一種のピアノ協奏曲として見立て、蚤<sup>のみ</sup>の市の場面のロシア民話的な極彩色と対照的に、ペトルーシカにはピアノを容赦なく打楽器的に使う。

オーケストラを「見て」面白いことも《ペトルーシカ》の特徴である。ストラヴィンスキーは「眼を閉じて音楽を聴くのは嫌いだ」と公言していた。楽器を弾く身振りの面白さを徹底的に追求した。《ペトルーシカ》の管弦楽法も「見て」とても楽しい。ロマン派のように弦楽器がベースを作り、管楽器が色を添えるのではない。管楽器がベースを作り、そこに弦楽器が合いの手を入れる。地と図が反転している。同作品のモダン性のひとつである。

なお第2次世界大戦中にアメリカ亡命を余儀なくされたストラヴィンスキーは、旧作を次々に改作した。そうしないと印税が入らなくなったからである。《ペトルーシカ》1947年版もそのひとつだが、しかし箇所によっては原曲とまったく違って響く。ロマン派的な色彩は削ぎ落とされ、明らかに「新古典主義以後のストラヴィンスキー」の手によるものだとわかる。

作曲年代	[バレエ版] 1910～1911年 [1947年版] 1946～1947年
初演	[バレエ版] 1911年6月13日、ピエール・モントゥー指揮、ロシア・バレエ団、パリ・シャトレ劇場
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(バス・クラリネット1)、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、シンバル付き大太鼓、大太鼓、小太鼓、タンブリン、タム・タム、シロフォン、ハーブ1、ピアノ1、チェレスタ1、弦楽

# N響百年史

## 第二十六回「花神」服部愿夫

片山杜秀  
Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。NHKの前身である東京放送局に専属オーケストラが生まれた裏には、ひとりの知られざる人物の功績がありました。

### 知られざるN響の「花神」

1977(昭和52)年、NHKは第15作目の大河ドラマを放送した。『花神』という。幕末維新を主に長州から描く。原作、司馬遼太郎。脚本、大野靖子。主演は中村梅之助。準主演格で中村雅俊や高橋英樹や浅丘ルリ子が登場。音楽はというと林光。テーマ曲は山田一雄の指揮するNHK交響楽団の演奏だった。

そのドラマの冒頭には、小高昌夫アナウンサーによる印象深いナレーションが付されていた。表題の意味を端的に説明する。こう始まる。

「一人の男がいる。歴史が彼を必要としたとき忽然と現れ、その使命が終わると大急ぎで去った」

『花神』の主人公、村田蔵六——のちの大村益次郎のことを指している。長州の村医者の子が、大阪の適塾で蘭学を学び、徹底的な合理主義を身につけ、村医者を継ぐことに満足せず、幕末維新の動乱に身を投じ、武士に取り立てられ、長州の軍制の近代化に貢献し、戊辰戦争では彰義隊をたちまち潰走させ、維新政府の高官となり、近代日本の軍隊の基礎作りに最大級の貢献をするけれど、結果を見るはるか前、維新の初めのうちに、暗殺されてしまう。そのあまりに足早な生涯を、司馬遼太郎は、枯れ木に花を咲かせるごとく、江戸時代をあっという間に文明開化の世に変えた一種の花咲翁にたとえた。だからナレーションはこう展開する。

「中国では花咲翁のことを花神という。彼は花神の仕事を負ったのかもしれない」

実は、この花神のような人物が、日本のオーケストラ史にも存在した。黎明期の放送局が彼を必要としたとき、まさに忽然と現れて、そ

の使命が終わると、大急ぎで去っていった。彼は、放送局にはプロフェッショナルなオーケストラを育てる使命があるとの確信を、なぜだか猛烈に有していた。大正初期から幾度か花開きかけては、すぐに散ってしまっていた交響楽運動の歴史に、決定的に足りていなかったものを提供した。定期的な演奏機会(放送番組へのレギュラー出演!)、それに伴う相応の出演料、さらにオーケストラの運営のための毎月の賛助金である。しかも、その仕掛けを見事に定着させた。人や組織が変わってもなるだけ揺るがぬようにした。ラジオ番組にオーケストラが出ているのは当たり前。音楽家はそう思っているも、世間には必ずしも共有されていなかった価値観を、建前論にとどまらず、きわめて具体的な内容を盛り込んで確立させ、新常識とした。しかもその常識は今日までそれなりに保たれているといつてよい。だから放送局に支えられるNHK交響楽団が存在し、そのコンサートがテレビやラジオで中継され続けているのであろう。日本のクラシック音楽史における、彼の功績は、ことさら大と言わねばなるまい。

このような人物は、やはり一種の花神ではあるまいか。彼の名を服部<sup>よしお</sup>愿夫という。1925(大正14)年6月4日、社団法人東京放送局の放送部長に就任した。今日風に言えば編成局長というところか。放送番組の編成と内容を取り仕切る、きわめて実力ある立場である。東京放送局が本放送を開始し、近衛<sup>このみちでさる</sup>秀麿が近衛シンフォニー・オーケストラを率いてベートーヴェンの《交響曲第5番》を、山田耕筰が日本交響楽協会を指揮して自作やサン・サーンスを電波に乗せたのは、前回触れたとおり7月12日だから、服部が放送局に現れたのは、その前月のことであった。放送部長の人事はずっと難航していた。が、本放送開始も近く

なったので、いい加減決めねば間に合わぬと、ついに任じられたのが服部で、山田や近衛を出演させることを含め、7月12日以降の本放送の番組内容は、服部の、公共放送の中身はかくあるべしという信念によって、かなり貫かれていたといつてよかった。そして服部は、繰り返しになるが、オーケストラの演奏をスタジオから生中継する番組を重視し、山田と近衛と彼らの率いる楽団を、レギュラーで出演させる方針を打ち出した。山田はこのあたりの物語を、最晩年になって、NHKの雑誌『放送文化』で次のように回顧している。

「<sup>あなたごやま</sup>愛宕山で放送を始めたのは、大正十四年の暑い頃だった。愛宕山の局舎は当時先端をいくモダンな局舎で、世目をそばだてたものである。時の放送部長は、服部愿夫君だった。或る日、僕は愛宕山を訪ねて、同君に、僕の結成した日本交響楽協会の育成を頼んだことがある。当時、わが国には、洋楽が澎湃<sup>ほうはい</sup>として盛んになる機運にあった。服部君は、前から、放送によって日本の国民に正しい音楽趣味をつちかおうとする燃える理想を持っていた。そのためには、オーケストラを育成しないとイケないと考えていた。同君は僕の考えに同意し、話は順調に進んだ」

だがしかしと、山田の文章は続く。「放送局の当時の経済は、オーケストラを常備する余裕はなかった。ただ日響のために使える金は、放送謝金だけだった。この放送謝金だけで、是<sup>ぜ</sup>が非でもわが国にオーケストラ芸術を確立していこうとする熱意に燃える楽員が二十余人いた。その楽員たちが、僕の指揮で、時々オーケストラ放送を行うことになった」

けれども「二十余人」ではどうしようもない。室内管弦楽団の域を出ない。そこで山田はどうしたか。「僕は放送局顧問となったものだ」。

そうして放送局の内部から山田が運動したことが功を奏し、放送局がオーケストラに振り充てるお金が大幅に増額された。日本交響楽協会は「放送局からの謝金で約五十名の楽員をもち、大正十四年の秋から毎月演奏会をひらくことになった。十五年からは、予約会員制度によるオーケストラ演奏会を行なうようになった」。それが今のNHK交響楽団の定期演奏会にまっすぐつながっているというのが、山田の歴史観である。NHK交響楽団の正史は、1926(大正15)年10月5日に、山田派と近衛派が分裂し、近衛派が新交響楽団の結成式を行った時点を、自らの始まりとしており、それはもちろん極めて正当な史観に従うものに違いないけれど、山田の立場からすると、その1年前の「大正十四年の秋」からの楽団組織の連続性を強調したくてたまらないというのが、最晩年までの揺らがぬ思いであったのだろう。

それはともかく、先に引用した山田の晩年の回顧譚は、いかにも山田らしい大風呂敷の調子があり、要するに服部の役割をやや軽めに、山田の役割をやや重めに脚色している具合なので、そのまま鵜呑みにできぬとはいえ、遠い彼方かなり埋もれて、曖昧模糊としたところの多分にある、日本のオーケストラ史の大切な部分を、やっぱり霧の中ではあるけれど、ある程度、伝えてくれるものとして解釈し、読み込むこともできるだろう。

## 放送局に常雇いの50人規模のオーケストラを！ ——服部の理想

復習を交えて整理してみれば、こうなる。1924(大正13)年春の日露交響(交歓)管絃楽演奏会は、満洲やソ連から招聘したロシア人音楽家に、山田の日本交響楽協会と近衛の

近衛シンフォニー・オーケストラの大同団結した日本人楽士を加えた、臨時編成の交響楽団によって開催された。といっても、日本側の2団体のメンバーに、厳然と区別があったわけではない。両方を兼ねる楽士も幾人もいたようだ。山田が1924年以来、主宰していた日本交響楽協会も、近衛がベルリン・フィルハーモニー管絃楽団を指揮して帰国後に作った近衛シンフォニー・オーケストラも、共に楽士に月給を払って正社員的な雇用ができていたわけではない。演奏機会に応じてコア・メンバーを中心に、そのつど人を集める団体だった。よって、両方に参加する者がいても、自然である。そういう意味で、山田の団体も近衛の団体も、実体は不十分だった。恒常的なプロ団体としての演奏会用交響楽団からは、まだかなり遠かった。日露交響管絃楽演奏会の盛り上がりは、そんな中途半端な状況を突破しようとする意欲を、日本側の参加楽士たちに強く醸成した。けれど、日露交響管絃楽演奏会の勸進元の松竹は、パーマネントなプロ・オーケストラの経営にはリスクがありすぎると、手を出さずしななかった。

代わって交響楽団の運営元、ないしスポンサーの最有力候補として登場したのは、新規開業する公共放送局である。放送部長の服部は、本放送開始日に、「二十余人」の日本交響楽協会と、恐らく50人以上はいただろう近衛シンフォニー・オーケストラの両方を、別々に、とりあえず出演させた。でも、服部としてはそのまま満足してはいられなかった。そのたびごとの寄せ集めでは困る。放送に常時出演せられる、定まった交響楽団を持つことが急務だった。そうでないと理想の番組編成ができない。演奏のクオリティも保てまい。ならば手っ取り早くは、放送局が自前の交響楽団をもてば

よい。たとえばベルリン放送交響楽団は1923年に誕生している。放送局が大編成の交響楽団を養うのは、文明国の趨勢<sup>すうせい</sup>に違いあるまい。

けれども、山田が振り返るように、東京放送局の当時の予算規模では、その夢はかなわなかった。ならば仕方ない。トーンが一段下がらざるを得ない。放送局が経済的に後援して、その見返りとして放送番組に優先的に出演する交響楽団を育てていくというのなら、現段階でもできなくはないだろう。服部はそのための仕事をたちまちした。引用した山田の文章にあるように、放送局の洋楽番組編成の顧問に迎えた山田の方が、そのときいくら働いたのもきっと事実だろう。しかし、服部は山田に改めて言われなくても、最初からその気で放送局に乗り込んできていた。服部は交響楽団に毎月およそ3000円を援助することを約し、ただちに実行した。もちろん、その際、条件があったろう。日本交響楽協会と近衛シンフォニー・オーケストラが別々に不完全な編成であり続けても困る。3000円はまとめてひとつのオーケストラに渡したい。そのお金によって何とか職業的団体の体裁を確立してもらいたい。交響楽団の全般<sup>まかな</sup>を賄うにははなはだ不足な金額ではあるけれど、それでも3000円あれば、何十人かに月給を出せる。映画館の伴奏オーケストラで待遇のよい人気楽士の月給が100円くらい、大企業のエリート・サラリーマンの初任給が80円くらいという時代である。3000円を基礎にし、そこに放送番組出演料やコンサートのチケット収入を加えれば、日本交響楽協会と近衛シンフォニー・オーケストラのいつもの参加者の腕利きをまとめて、約50人は常雇いのできるのではないか。近衛も師匠の山田の顔を立て、日本交響楽協会の名義での統合を承認した。こうして服部の差配に

より、社団法人東京放送局を事実上のスポンサーとする、正真正銘の月給取りたちの交響楽団が、山田と近衛の二頭体制のもと、誕生した。日本交響楽協会が「放送局からの謝金で約五十名の楽員をも」つことができ、オーケストラとして軌道に乗ったと、晩年の山田が回顧しているのは、そういった事情を指しているのだろう。

すると、日本のオーケストラ運動史の花神とも呼ばれるべき服部愿夫とは、いったい、いかなる人物なのか。それなりの背景なくして、いきなり東京放送局の放送部長になるはずはない。彼は、その椅子に舞い降りるべくして舞い降りてきた、選び抜かれ、何をすべきか、意をよく含められた人物だったのであろう。

## 服部愿夫とは何者か

服部は1882(明治15)年に東京で生まれた。山田耕筰よりは4つ年上になる。西洋画家を志し、東京美術学校(現東京藝術大学美術学部)に進むが、在籍して3年めに中退。時事新報社の広告部に勤め、図案家、デザイナー、挿絵画家として大活躍し、やがて、白粉<sup>おしろい</sup>の製造販売で化粧品業界の一翼を担っていた伊東胡蝶園<sup>いとうこちやうえん</sup>の広告部長に引き抜かれる。大正時代の話だ。高級化粧品の主たる購買層は、あらためて断るまでもなく都会の富裕なブルジョアの婦女子と決まっており、歌舞伎、文楽、新派、新劇、日本美術、西洋美術、伝統邦楽、西洋クラシック音楽の愛好者たちとかなり被る。服部は、東京美術学校で西洋画を学び、図案家に転身したというだけでなく、歌舞伎や邦楽に明るく、自ら三味線<sup>たしな</sup>を嗜むという人だった。三味線の師匠は稀代の名人にして新

趣向の作曲でも知られる4世<sup>きねや</sup>杵屋佐吉。西洋演劇や西洋音楽にも強い。服部の妻はというと、歌舞伎界に血縁があった。このような服部の能力と趣味嗜好、さらに美術界・演劇界・音楽界との手広い人脈は、化粧品会社の広告部長にまさにうってつけだった。

伊東胡蝶園は、出版業にも出資し、演劇から音楽舞踊まで幅広く取り上げた月刊誌『新演芸』のスポンサーにもなるが、この雑誌の編集を仕切ったのも服部である。その頃、服部は山田耕筰とも付き合いができていた。服部の東京美術学校の後輩に、広告文案家として一世を風靡した齋藤佳三<sup>かぞう</sup>がおり、服部は齋藤にもろもろ仕事を頼んでいたが、その齋藤は東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)にも学んで、山田耕筰とはベルリン留学期を共に過ごした親友の間柄だった。服部は齋藤から山田を紹介され、山田が『新演芸』に寄稿することもあった。服部は東京放送局の放送部長になるずっと前から、山田のオーケストラ運動の理解者でもあった。

そんな服部は政界にも<sup>つて</sup>伝手があった。旧小倉藩主家の当主で、貴族院議員の小笠原長幹<sup>おがさわらなが</sup>伯爵に気に入られ、長く側近として相談ごとになり、伯爵が1922(大正11)年に国勢院総裁に任じられると、<sup>こ</sup>請われて総裁の秘書官になった。ほんの一時期ながら官界入りも果たしたわけである。ところで、この小笠原伯にとっても近く、伯を通じて貴族院にも影響力を行使していた、いわゆる政財界の黒幕といえは藤田勇<sup>いさむ</sup>だ。藤田は、後藤新平とヨッフエによって行われた日ソ国交交渉を斡旋した人物でも

ある。ここで、山田耕筰が日露交驩管絃楽演奏会を仕掛けたのは、南満州鉄道の初代総裁、後藤新平の満洲人脈とソ連人脈を頼ってのことだった事実を、是非とも思い出さねばならない。後藤は山田のオーケストラ運動に最大級の理解を示していた。そして後藤は社団法人東京放送局の総裁である。

恐らく、他の推薦する別候補をおしのけ、服部愿夫が放送部長に任じられたのは、小笠原長幹と藤田勇<sup>から</sup>が絡みもする、後藤総裁の人事であった。服部なら、歌舞伎も長唄もラジオ・ドラマも、その人脈を駆使して、公共放送にふさわしい芸術的な番組をいくらでも制作できよう。だが、それだけではない。放送局のなしうる最大限の援助を与え、プロ・オーケストラを軌道に乗せること。これこそ服部に期待された最大のミッションであつたらう。この花咲翁は毎月3000円を振り<sup>ま</sup>つき続けて、職業的交響楽団の花を開かせると、健康上の問題を理由に、在職わずか1年ほどで、放送局を去った。日本交響楽協会の分裂騒動と新交響楽団の誕生は、服部が退いてからの話である。

#### 文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

#### 次回予告

いったんは日本交響楽協会の名のもとに大同団結したかに見えた山田耕筰と近衛秀麿でしたが、師弟の決裂は時間の問題でした。

# 2022年4月定期公演の聴きどころ

## 公演企画担当者から

クリストフ・エッシェンバッハが2年ぶりに登場する。これまでにブラームスやマーラーを指揮し、N響との相性のよさを強く印象づけた。ドイツの伝統を継承する世界的指揮者との再会に期待が集まる。

**音楽とともに生きる——ドイツ最高峰の巨匠がすべてをかけて奏でるベートーヴェン《第7番》**

エッシェンバッハは1940年、当時ドイツ領だったヴロツワフ（現ポーランド）に生まれた。幼くして両親を亡くし、難民キャンプで生死の境をさまようという壮絶な体験を経て、母方の親戚に引き取られる。音楽との出会いが、一時は失語症であった彼の人生を変えた。フルトヴェングラーのベートーヴェンに感動して指揮者を志し、ピアニストとして世に出た後も、地道に指揮の勉強を続ける。セルやカラヤンといった巨匠から受けた無償の教えが、彼の血肉となった。

全存在をかけて音楽に打ち込む姿勢、若者に対する思いやりと献身的な教育活動——

エッシェンバッハを形作っているのは、彼が歩んできた人生そのものである。

ドヴォルザーク《序曲「謝肉祭」》で華やかに始まる[池袋Aプログラム]は、続く協奏曲のソリストに、ギリシャ出身のスタティス・カラパノスを迎える。エッシェンバッハが手塩にかけて育てている25歳の若者である。前回の共演時にも同行し、リハーサルから食事まで間近でマエストロの警咳けいがいに接しながら、こまめに指導を受けていた様子を思い出す。

フルート奏者の聖典とも言うべきモーツァルト《フルート協奏曲第1番》で、年齢の垣根を越えた一体感を見せてくれることだろう。

ベートーヴェン《交響曲第7番》も、言わずと知れた古典中の古典。音楽家エッシェンバッハのキャリアもまた、ベートーヴェンと共にあった。

**マエストロが深い共感を寄せるマーラー 個々の存在をありのままに描き出す《第5番》**

[池袋Cプログラム]は、2020年1月の《復活》に続く、マーラーの交響曲シリーズ第2弾。

今回は《巨人》と並び、最もポピュラーな《交響曲第5番》である。振り返れば一昨年の共演は、コロナの影響であらゆる音楽活動が休止に追い込まれる直前というタイミングだった。コンサートに先立ち、エッセンバッハは「すべての人に慰め<sup>なぐさ</sup>を届けたい。今回のマーラーが困難を乗り越えるための一助になるよう」と語っていた。今やこの言葉が、当時とは比べ物にならない重みをもって響いてくる。

エッセンバッハにとってマーラーは「古今最高の交響曲作家」であり、その作品は「人生のさまざまな問いに対する答えを内包する至高の芸術、完全無欠の記念碑」であるという。数々の困難に直面しながら、創造の世界を切り開いていった生き様にも、深い共感を抱いているに違いない。

マーラーにおいては、行進曲・民族舞曲か

ら聖歌・童謡にいたる多種多様な音楽ジャンル、東洋やスラヴ・ユダヤなど、西洋以外の文化的素材が共存する。こうした要素を無理に統合するのではなく、相異なるものとしてそのまま提示する点に、エッセンバッハの解釈の大きな特徴があるように思われる。甘美なものや粗野なものを明確に描き分け、刻々と移行行く情景に合わせて柔軟にテンポを動かしながら、個々の要素の対比を際立たせるのだ。

ダイバーシティ(多様性)がキーワードとなっている現代社会において、エッセンバッハが指揮するマーラーの今日的意義は、ますます高まっている。

[西川彰一／NHK交響楽団演奏制作部長]

※ mélomane : フランス語で「音楽愛好家」の意

**池袋** **A** **4/9** <sup>土</sup> 6:00pm  
**4/10** <sup>日</sup> 2:00pm  
東京芸術劇場

ドヴォルザーク／序曲「謝肉祭」作品92  
モーツァルト／フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313  
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92  
指揮：クリストフ・エッセンバッハ  
フルート：スタティス・カラパノス



**B**  
サントリーホール

サントリーホールの改修工事に伴い、  
4月定期公演Bプログラムの開催を休止します。

**池袋** **C** **4/15** <sup>金</sup> 7:30pm  
**4/16** <sup>土</sup> 2:00pm  
東京芸術劇場

マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調  
指揮：クリストフ・エッセンバッハ



# チケットのご案内(定期公演 2021年9月～2022年6月)

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	2月	発売中
[11:00amからの受付]	4・5・6月	3月2日[水](会員)／3月6日[日](一般)

※今後の状況によっては発売日が変わる場合があります  
※最新の情報はN響ホームページ等でご確認ください

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ Aプログラム、CプログラムはNHKホール改修工事に伴い、会場をNHKホールから東京芸術劇場(池袋)に移して「池袋Aプログラム」「池袋Cプログラム」として行います  
※ Bプログラムはサントリーホール改修工事に伴い、2022年4月公演を休止するため全8回となります。シーズン会員券の販売はございません  
※ 池袋Cプログラムは2021～22シーズンから会員券の料金を変更させていただきます

発売開始日	年間会員券	販売終了
[11:00amからの受付]	シーズン会員券(Autumn / Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	2月22日[火](会員)／2月25日[金](一般)

※今後の状況によっては発売日が変わる場合があります

## 料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [池袋A]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥9,000 (¥1,000)
年間会員券(8回) [B]	¥58,640 (¥7,330)	¥50,320 (¥6,290)	¥39,120 (¥4,890)	¥31,760 (¥3,970)	¥24,480 (¥3,060)	¥8,000 (¥1,000)
年間会員券(9回) [池袋C]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥8,820 (¥980)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [池袋A]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,900 (¥1,300)
シーズン会員券(3回) [池袋C]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,780 (¥1,260)

※( )内は1公演あたりの単価

## WEBセレクト3+

好きな公演を3つ以上セレクトすると、1回券がお得になります。Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引い

たします。座席・券種は自由にお選びいただけます。なお、2月公演は、単月での発売となったため、WINTERシーズンでの「WEBセレクト3+」の販売を休止いたしました。

※ WEBチケットN響のみでの販売となります  
※ 1回券発売日からお申し込みいただけます  
※ 割引の併用はできません

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります  
※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

## お問い合わせ

**N響ガイド | TEL 03-5793-8161**

営業時間: 11:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演池袋Aプログラムの翌月曜

- 主催公演開催日は曜日に問わず11:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業
- 感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhkso.or.jp>

Please follow us on



# 2021-22定期公演プログラム

2022 04	池袋 A	第1954回 4/9(土) 6:00pm 4/10(日) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	ドイツ最高峰の巨匠と紡ぐベートーヴェンの「舞踏交響曲」 ドヴォルザーク／序曲「謝肉祭」作品92 モーツァルト／フルート協奏曲 第1番ト長調 K. 313 ベートーヴェン／交響曲 第7番イ長調 作品92 指揮：クリストフ・エッセンバッハ フルード：スタティス・カラバノス	一般 ユース S ¥9,800 S ¥5,800 A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800
		B	サントリーホールの改修工事に伴い、4月定期公演Bプログラムの開催を休止します。	
2022 05	池袋 A	第1955回 4/15(金) 7:30pm 4/16(土) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	孤高の巨匠が迫るマラーの本質——エッセンバッハの《交響曲第5番》 マラー／交響曲 第5番嬰ハ短調 指揮：クリストフ・エッセンバッハ	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400
		B	第1956回 5/14(土) 6:00pm 5/15(日) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	こだわりの名匠と一から再構築するシューベルトの巨大な音楽遺産 シューマン／ヴァイオリン協奏曲 二短調 シューベルト／交響曲 第8番ハ長調 D. 944「ザ・グレート」 指揮：マレク・ヤノフスキ ヴァイオリン：アリオーナ・パーエフ
2022 05	池袋 B	第1958回 5/25(水) 7:00pm 5/26(木) 7:00pm サントリーホール	名キャプテンルイージと大海原を音楽で航海する メンデルスゾーン／序曲「静かな海と楽しい航海」作品27 ラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調 リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェラザード」作品35 指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：小菅 優	一般 ユース S ¥9,800 S ¥5,800 A ¥8,400 A ¥4,800 B ¥6,700 B ¥3,800 C ¥5,400 C ¥2,800 D ¥4,400 D ¥1,800
		池袋 C	第1957回 5/20(金) 7:30pm 5/21(土) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	ルイージと丹念に磨き込むウィーン古典派の名品 モーツァルト／歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K. 466 ベートーヴェン／交響曲 第8番ハ長調 作品93 指揮：ファビオ・ルイージ ピアノ：アレクサンドル・メルニコフ
2022 06	池袋 A	第1959回 6/11(土) 6:00pm 6/12(日) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	フランス音楽と文学の幸せなマリージュ その戦美的な世界に身を委ねる デュカス／バレエ音楽「ペリ」(ファンファーレつき) ラヴェル／シェラザード* ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲 フロラン・シュミット／バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ メゾ・ソプラノ：ステファニー・ドゥストラック*	一般 ユース S ¥8,900 S ¥5,500 A ¥7,400 A ¥4,500 B ¥5,800 B ¥3,500 C ¥4,700 C ¥2,500 D ¥3,700 D ¥1,500
		B	第1961回 6/22(水) 7:00pm 6/23(木) 7:00pm サントリーホール	しなやかに、颯爽と！鈴木優人のモーツァルト「ジュピター」 バッハ(鈴木優人編)／パッサカリアとフーガ 八短調 BWV582 プリテン／ヴァイオリン協奏曲 作品15 モーツァルト／交響曲 第41番ハ長調 K. 551「ジュピター」 指揮：鈴木優人 ヴァイオリン：郷古 廉
2022 06	池袋 C	第1960回 6/17(金) 7:30pm 6/18(土) 2:00pm 東京芸術劇場 コンサートホール	仏米2人の作曲家が伝える1920～30年代 巴りの息吹 ブーランク／バレエ組曲「牝鹿」 ブーランク／オルガン協奏曲ト短調 ガーシュウィン／バリのアメリカ人 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ オルガン：オリヴィエ・ラトリ	一般 ユース S ¥7,400 S ¥4,500 A ¥6,500 A ¥4,000 B ¥5,200 B ¥3,000 C ¥4,200 C ¥2,000 D ¥3,200 D ¥1,400
				(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

## 2022-23定期公演予定(日程・指揮者)

	A	B	C
	NHKホール 土 日	サントリーホール 水 木	NHKホール 金 土
2022 09	9/10 土 11 日 ファビオルイージ	9/21 水 22 木 ファビオルイージ	9/16 金 17 土 ファビオルイージ
2022 10	10/15 土 16 日 ヘルベルト・プロムシュテット	10/26 水 27 木 ヘルベルト・プロムシュテット	10/21 金 22 土 ヘルベルト・プロムシュテット
2022 11	11/12 土 13 日 井上道義	11/23 水 祝 24 木 レナード・スラットキン	11/18 金 19 土 レナード・スラットキン
2022 12	12/3 土 4 日 ファビオルイージ	12/14 水 15 木 ファビオルイージ	12/9 金 10 土 ファビオルイージ
2023 01	1/14 土 15 日 トゥガン・ソヒエフ	1/25 水 26 木 トゥガン・ソヒエフ	1/20 金 21 土 トゥガン・ソヒエフ
2023 02	2/4 土 5 日 尾高忠明	2/15 水 16 木 ヤクブ・フルシャ	2/10 金 11 土 祝 ヤクブ・フルシャ
2023 04	4/15 土 16 日 バーヴォ・ヤルヴィ	4/26 水 27 木 バーヴォ・ヤルヴィ	4/21 金 22 土 バーヴォ・ヤルヴィ
2023 05	5/13 土 14 日 下野竜也	5/24 水 25 木 ファビオルイージ	5/19 金 20 土 ファビオルイージ
2023 06	6/10 土 11 日 ジャンンドレア・ノセダ	6/21 水 22 木 ジャンンドレア・ノセダ	6/16 金 17 土 ジャンンドレア・ノセダ

※やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

- ・ Aプログラム、CプログラムはNHKホールで開催します。
- ・ NHKホールでの公演(Aプログラム、Cプログラム)の開演時間は調整中です。Bプログラムは7:00pm開演予定です。
- ・ 曲目や公演の詳細は2022年3月末に発表する予定です。
- ・ 新シーズンの会員券手続きに関するご案内は、対象の方へ2022年5月中旬にお送りする予定です。

## 各地の公演

---

2/21(月) 7:00pm | 国際音楽祭 NIPPON2022

尾高忠明 指揮 / NHK交響楽団 / 諏訪内晶子 (ヴァイオリン)

東京オペラシティ コンサートホール

指揮: 尾高忠明 ヴァイオリン: 諏訪内晶子

シベリウス / 「ベレアスとメリザンド」組曲 作品46

デュティユー / ヴァイオリンと管弦楽のための夜想曲「同じ和音の上で」

ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

主催: ジャパン・アーツ お問い合わせ: ジャパン・アーツびあコールセンター TEL (0570) 00-1212

---

2/24(木) 7:00pm | 2022都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 53

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮: 高関 健 ヴァイオリン: 南 紫音

チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催・お問合せ: (公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

---

2/26(土) 3:00pm | NHK交響楽団 長岡特別演奏会

長岡市立劇場

出演者・曲目は2月24日と同じ

主催: (公財)長岡市芸術文化振興財団 お問い合わせ: (公財)長岡市芸術文化振興財団 事業課(長岡リリックホール内) TEL (0258) 29-7715

---

3/6(日) 5:00pm | NHK交響楽団×野平一郎プロジェクト フルオーケストラによる完結編

シリーズⅢ ロマン派から印象派へ+

野平一郎 静岡トリロジーⅢ「瞬間と永遠の歌」

グランシップ 中ホール・大地

指揮: 野平一郎 合唱: 静岡児童合唱団・青葉会スベリオル\*

ビゼー / 「アルルの女」組曲 第2番

ドビュッシー / 牧神の午後への前奏曲

ラヴェル / バレエ音楽「ラ・ヴァルス」

野平一郎 / 静岡トリロジーⅢ(公益財団法人静岡県文化財団委嘱作品・新作初演)\*

主催: (公財)静岡県文化財団 / 静岡県 お問い合わせ: グランシップチケットセンター TEL(054) 289-9000

---

**3/13(日) 5:00pm | N響姫路公演**

---

**アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)大ホール**

---

指揮:原田慶太楼 ピアノ:小曾根 真\*  
バーンスタイン/「キャンディード」序曲  
バーンスタイン(メーン編)/「ウエスト・サイド・ストーリー」セレクション  
ガーシュウィン/ラプソディ・イン・ブルー\*  
ロジャース&ハマースタインII(ベネット編)/サウンド・オブ・ミュージック  
ガーシュウィン(ベネット編)/「ポーギーとベス」交響的絵画

主催:(公財)姫路市文化国際交流財団 お問合せ:(公財)姫路市文化国際交流財団 制作チーム TEL (079) 298-8015

---

---

**3/14(月) 7:00pm | 開館25周年記念 NHK交響楽団**

---

**シンフォニア岩国 コンサートホール**

---

出演者・曲目は3月13日と同じ

主催:シンフォニア岩国指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ お問合せ:シンフォニア岩国 TEL (0827) 29-1600

---

---

**3/30(水) 5:00pm | 東京・春・音楽祭 2022 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.13**

---

**4/2(土) 3:00pm | 《ローエングリン》(演奏会形式/字幕付)**

---

---

**東京文化会館 大ホール**

---

指揮:マレク・ヤノフスキ ローエングリン:ヴィンセント・ウォルフシュタイナー エルザ:マリータ・ソルベルグ  
テルラムント:エギルス・シリンス オルトルート:エレナ・ツィトコーワ ドイツ国王ハインリヒ:タレク・ナズミ  
式部官:リヴェュー・ホレンダー 合唱:東京オペラシンガーズ ほか  
ワーグナー/歌劇「ローエングリン」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭実行委員会 TEL (03) 5205-6497

---

---

**4/26(火) 7:00pm | マリア・ドゥエニャス&N響スペシャルコンサート**

---

**～メニューイン国際コンクール優勝記念～**

---

---

**東京芸術劇場 コンサートホール**

---

指揮:山田和樹 ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス  
ラヴェル/チガーヌ  
ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第1番、第2番  
ヴェルディ/歌劇「運命の力」序曲  
パガニーニ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6

主催:日本音楽財団 共催:NHK交響楽団/認定NPO法人マギーズ東京  
お問合せ:認定NPO法人マギーズ東京チャリティーコンサート事務局 TEL (03) 6261-7665

---

---

**5/3(火祝) 3:30pm | N響ゴールデン・クラシック 2022**

---

**東京文化会館 大ホール**

---

指揮:高関 健 ヴァイオリン:周防亮介  
チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35、交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:MIYAZAWA & Co. お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

---

---

**5/4(水) 4:00pm | 軽井沢大賀ホール 2022春の音楽祭**

---

**軽井沢大賀ホール**

---

出演者・曲目は5月3日と同じ

主催: 軽井沢町 / (公財) 軽井沢大賀ホール お問い合わせ: 軽井沢大賀ホール TEL (0267) 42-0055

---

---

**6/4(土) 4:00pm | N響ベストクラシックス 秋山和慶×荒井里桜×NHK交響楽団**

---

**かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール**

---

指揮: 秋山和慶 ヴァイオリン: 荒井里桜  
ブルッフ / ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26  
ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催: 葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ: かつしかシンフォニーヒルズ TEL (03) 5670-2233

---

---

**6/5(日) 3:00pm | 第24回 NHK交響楽団足利定期公演**

---

**足利市民プラザ・文化ホール**

---

出演者・曲目は6月4日と同じ

主催: (公財) 足利市みどり文化・スポーツ財団 / 足利市教育委員会 / 下野新聞社 お問い合わせ: 足利市民プラザ TEL (0284) 72-8511

---

---

**6/26(日) 2:00pm | N響×鈴木優人 at 調布国際音楽祭2022**

---

**調布市グリーンホール 大ホール**

---

指揮: 鈴木優人 ヴァイオリン: 郷古 廉  
バッハ (鈴木優人編) / バッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582  
メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 本短調 作品64  
モーツァルト / 交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催: (公財) 調布市文化・コミュニティ振興財団 / 調布市 お問い合わせ: (公財) 調布市文化・コミュニティ振興財団 チケットCHOFU TEL (042) 481-7222

---

---

**オーチャード定期**

---

**Bunkamura オーチャードホール**

---

---

**3/12(土) 3:30pm**

---

出演者・曲目は3月13日と同じ

---

---

**5/8(日) 3:30pm**

---

指揮: マレク・ヤノフスキ  
ベートーヴェン / 「エグモント」序曲、交響曲 第1番 ハ長調 作品21、交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催・お問い合わせ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

---

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取   藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   平子裕志
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 谷原 徹
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   小野木昌史
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (一財)NHK インターショナル 理事長   黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 会長   伊東忠彦	・ (株)NHK エデュケーションナル 代表取締役社長   田波宏視
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長   浅田剛夫	・ (一財)NHK エン지니어リングシステム 理事長   黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   高波博之	・ (株)ウイングツァー 代表取締役   福田健二	・ (学)NHK学園 理事長   篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役会長   川崎靖之	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長   根本拓也

- ・(一財)NHK サービスセンター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイト  
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 大美慶昌
- ・(株)NHK文化センター  
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
大田勝幸
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・岡山英世
- ・沖電気工業(株)  
代表取締役社長執行役員 | 鎌上信也
- ・花王(株)  
代表取締役 社長執行役員  
長谷部佳宏
- ・カシオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)  
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 山田晴彦
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
紅村 康
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 石井光太郎
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役社長 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・(株)シグマタシス・ホールディングス  
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック  
院長 | 松木隆史
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSAT ホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーホールディングス(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純

・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男

・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫

・(株)セノン  
代表取締役 | 小谷野宗靖

・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

・損害保険ジャパン(株)  
代表取締役社長 | 西澤敬二

・第一三共(株)  
代表取締役社長 | 眞鍋 淳

・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則

・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎

・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明

・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人

・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二

・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人

・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗

・田原 昇

・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 住田和嘉子

・中央日本土地建物(株)  
代表取締役社長 | 平松哲郎

・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修

・(株)電通  
取締役社長執行役員 | 樽谷典洋

・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武

・(株)TOKAIホールディングス  
代表取締役社長 | 鶴田勝彦

・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 金子 慎

・東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫

・(株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫

・東京海上日動火災保険(株)  
取締役社長 | 広瀬伸一

・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎

・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通

・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄

・桐朋学園大学  
学長 | 梅津時比古

・東邦ホールディングス(株)  
取締役最高顧問 | 濱田矩男

・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 中島信也

・(一財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾

・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 豊田章男

・内外施設工業グループホールディングス(株)  
取締役会長 | 林 正道

・中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人

・中山武之

・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 今泉泰彦

・日東紡績(株)  
取締役 代表取締役社長 | 辻 裕一

・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 小林 茂

・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤

・日本通運(株)  
代表取締役社長 | 齋藤 充

・日本電気(株)  
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之

・(一財)日本放送協会共済会  
理事長 | 谷弘聡史

・日本郵政(株)  
取締役兼代表取締役社長 | 増田寛也

・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 柴尾雅春

・(株)日本デジコム  
代表取締役 | 竹井裕二

・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎

・パナソニック(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
楠見雄規

・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦

・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 井上福造

・(株)日立製作所  
執行役社長 | 小島啓二

・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆

・福田三千男

・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁

・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博亨

・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一

・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原慶三

・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 井上樹彦

・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一

・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義

・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏

・町田優子

・(株)松尾楽器商會  
代表取締役 | 松尾治樹

・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄

・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘

・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 船曳真一郎

・(株)三井住友銀行  
頭取 | 高島 誠

- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・三菱電機(株)  
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼  
代表 | 櫻井 恵

- ・(株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 藤沼大輔

- ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆
  - ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
  - ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
  - ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
  - ・ルーム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
  - ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次
- (五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9演演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

# NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュエット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

## 第1ヴァイオリン

青木 調  
字根京子  
大鹿由希  
□倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
○山岸 努  
○横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎  
☆森田昌弘  
木全利行  
齋藤麻衣子  
嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
矢津将也  
山田慶一  
横山俊朗

米田有花

村尾隆人

## ヴィオラ

◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小島茂隆  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
三戸正秀  
中 実穂  
○西山健一  
○藤村俊介  
宮坂拡志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

◎吉田 秀  
☆市川雅典  
☆西山真二  
稲川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真歩  
菅原 潤  
中村淳二

## オーボエ

◎青山聖樹  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

◎伊藤 圭  
◎松本健司  
# 山根孝司

## ファゴット

◎字賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

◎今井仁志  
◎福川伸陽  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
野見山和子

## トランペット

◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行  
吉川武典

## チューバ

池田幸広

## ティンパニ

◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハープ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
黒川大亮

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# 曲目解説執筆者

## 岡田暁生 (おかだ あけお)

京都大学人文科学研究所教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。著書に『音楽の危機——《第九》が歌えなくなった日』『音楽と出会う——21世紀的つきあい方』『西洋音楽史』『リヒャルト・シュトラウス』(作曲家・人と作品シリーズ)など、共著書に『すごいジャズには理由がある』など。

## 小岩信治 (こいわしんじ)

一橋大学言語社会研究科教授。専門はピアノ協奏曲を中心とする19世紀の音楽史。著書に『ピアノ協奏曲の誕生——19世紀ヴィルトゥオーソ音楽史』、共著書に『ピアノを弾く身体』のほか、論文「時空を越えた『デビュー用ピアノ協奏曲』——東京音楽学校におけるフンメル《協奏曲》イ短調 作品八五」など。

## 沼野雄司 (ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。多くの国際学会で研究発表を行うほか、著者に『現代音楽史』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

(五十音順、敬称略)

## Information

### 訃報

当団元ヴィオラ奏者(1963年4月入団)で団友の嶋田英康(しまだ ひでやす)氏が2021年12月21日に逝去されました。享年93。謹んでご冥福をお祈りいたします。

当団元チェロ奏者(1960年12月入団)で団友の小野崎純(おのざき じゅん)氏が2022年1月17日に逝去されました。享年83。謹んでご冥福をお祈りいたします。

### お詫びと訂正

本誌「Philharmony」1月号の「各地の公演」にて誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

29頁 3/30、4/2 東京・春・音楽祭2022〈ローエングリン〉

会場名

[誤]東京オペラシティ コンサートホール

[正]東京文化会館 大ホール

同頁 4/26 マリア・ドゥエニャス&N響スペシャルコンサート

開催曜日

[誤]日

[正]火

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi  
Music Director Emeritus: Charles Dutoit  
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt  
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy  
Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki  
Concertmaster: Ryotaro Ito  
Guest Concertmaster: Kei Shirai

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- Rintaro Omiya
- ☆ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda
  
- Ryuto Murao

## Violas

- Ryo Sasaki
- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

## Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

## Oboes

- Satoki Aoyama
- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

## Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

## Horns

- Hitoshi Imai
- Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

## Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
- Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando  
Eiji Yamamoto

## Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

Yukihiro Ikeda

## Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

## Percussion

Tatsuya Ishikawa  
Hidemitsu Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

Risako Hayakawa

## Stage Manager

Masaya Tokunaga  
Daisuke Kurokawa

## Librarian

Akane Oki  
Hideyo Kimura

(○ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

## PROGRAM

Ikebukuro

A

Concert No.1951

Tokyo Metropolitan Theatre

February

5(Sat) 6:00pm

6(Sun) 2:00pm

conductor

Tatsuya Shimono

piano

Aimi Kobayashi

concertmaster

Kei Shirai

**Robert Schumann**  
**Overture, Scherzo and Finale**  
**Op. 52—Overture [7']**

**Robert Schumann**  
**Piano Concerto A Minor Op. 54 [31']**

I Allegro affettuoso

II Intermezzo: Andantino grazioso

III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) —

**Robert Schumann**  
**Symphony No. 2 C Major Op. 61 [38']**

I Sostenuto assai – Allegro ma non troppo

II Scherzo: Allegro vivace – Trio I, II

III Adagio espressivo

IV Allegro molto vivace

- The performer and program have changed  
 from the original plan.

Under the auspice of: Toshima City

## Artist Profiles

## Tatsuya Shimono, conductor



Tatsuya Shimono was born in Kagoshima in 1969. In 2001, he won first prize at the Besançon International Music Festival. He served as Resident Conductor of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, while guestconducting orchestras overseas including the Czech Philharmonic and the Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia. Presently, he is serving as General Music Director of the Hiroshima Symphony Orchestra and Music Director of the Hiroshima Wind Orchestra. Since 2005, he has often worked with the NHK Symphony Orchestra, and he always provides stimulating programs.

[Tatsuya Shimono by Haruo Yamada, music critic]

---

# Aimi Kobayashi, piano



Fourth Prize winner of the 18th Chopin Piano Competition, Aimi Kobayashi garnered international acclaim for her exceptional talent. She is considered as one of the most sought-after pianists in Japan of her generation. She made her concerto debut at age eight, and started her international career at age nine. She is currently continuing her studies with Meng-Chieh Liu at the Curtis Institute of Music.

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

**Robert Schumann (1810–1856)**

### Overture, Scherzo and Finale Op. 52—Overture

Schumann played a leading role in musical Romanticism. Revised later in 1845, Op. 52 was written in 1841, known as his fruitful “orchestral year” in which his Symphony No. 1 and the original version of his Symphony No. 4 were also born. This Overture has the solemn introduction in E Minor making a vivid contrast with the lively main section in E Major.

**Robert Schumann**

### Piano Concerto A Minor Op. 54

The first movement of Op. 54 was initially completed as a fantasy during the above-mentioned “orchestral year” of Schumann, who revised and extended it into a three-movement concerto in 1845. Directly after the piano bursts at the opening, the oboe gives the essential notes of this work, C–H–A–A, hinting at the nickname (Chiara/Chiarina) of the composer’s wife Clara. The last two movements are performed continuously.

**Robert Schumann**

### Symphony No. 2 C Major Op. 61

Completed in 1846, this symphony was first performed the same year in Leipzig under F. Mendelssohn’s baton. At an early stage of composition, Schumann, who just recovered from a serious nervous breakdown, tells Mendelssohn in a letter that trumpets have been blasting in his head. In truth, we hear “trumpets” persistently resounding a dotted motto (brief motif) in the opening brass fanfare. The motto will recur repeatedly through the whole symphony, especially in the magnificent conclusion of the last movement.

**Kumiko Nishi**

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

**B**

Concert No.1953

Suntory Hall

February

16(Wed) 7:00pm

17(Thu) 7:00pm

conductor

Paavo Järvi

violin

Hilary Hahn

concertmaster

Kei Shirai

**Benjamin Britten**

“Peter Grimes,” opera

— Four Sea Interludes Op. 33a [17’]

I Dawn

II Sunday Morning

III Moonlight

IV Storm

**Samuel Barber**

**Violin Concerto Op. 14** [25’]

I Allegro moderato

II Andante

III Presto in moto perpetuo

— intermission (20 minutes) —

**Edward Elgar**

**Variations on an Original Theme**

**Op. 36 “Enigma”** [30’]

Theme: Andante

Var. I (C. A. E.)

Var. II (H. D. S-P.)

Var. III (R. B. T.)

Var. IV (W. M. B.)

Var. V (R. P. A.)

Var. VI (Ysobel)

Var. VII (Troyte)

Var. VIII (W. N.)

Var. IX (Nimrod)

Var. X (Dorabella: Intermezzo)

Var. XI (G. R. S.)

Var. XII (B. G. N.)

Var. XIII (\*\*\*) : Romanza

Var. XIV (E. D. U.: Finale)

## Paavo Järvi, conductor



Paavo Järvi returns to Japan for his final season as Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra. He completes his seven year tenure with performances of Britten, Barber and Elgar.

He serves as Chief Conductor of the Tonhalle Orchester-Zürich, as the long-standing Artistic Director of The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen and of the Estonian Festival Orchestra, which he founded in 2011. He is also Conductor Laureate of the Frankfurt Radio Symphony, Music Director Laureate of Cincinnati Symphony Orchestra and Artistic Advisor of the Estonian National Symphony Orchestra.

Born in Tallinn, Estonia, Paavo Järvi studied percussion and conducting at the Tallinn School of Music. In 1980, he moved to the USA where he continued his studies at the Curtis Institute of Music and at the Los Angeles Philharmonic Institute with Leonard Bernstein.

## Hilary Hahn, violin



Hilary Hahn, one of the most prominent violinists today, will return to the NHK Symphony Orchestra's subscription series after an absence of 17 years since May 2005 when she performed Prokofiev Violin Concerto No. 1 in D major under Paavo Järvi. On the coming occasion, she will play Violin Concerto by Barber, a composer whose works are significantly being re-evaluated. The American violinist has

a vast repertoire ranging from concertos, sonatas, commissioned works to fusion with other genres and has a long discography. In the 2021/22 season, she was appointed the Chicago Symphony Orchestra's Artist-in-Residence.

[Hilary Hahn by Yoshimichi Okuda, music critic]

## Program Notes | Kumiko Nishi

### Benjamin Britten (1913–1976)

## “Peter Grimes,” opera – Four Sea Interludes Op. 33a

The most notable English composer from the 20th century, Britten left several great operas. “Peter Grimes”(1945) is a tragedy about a lone-wolf-fisherman, the title role, living in a closed coastal village. The four Interludes, readjusted by Britten for concert, play important parts in the drama describing scene changes and characters' psychologies. “Moonlight,” for instance, bridges the scene of the accidental death of Grimes' apprentice and the scene when he is accused of murder by a villager.

**Samuel Barber (1910–1981)**

---

## **Violin Concerto Op. 14**

Barber is a best-known American composer for his hit “Adagio for Strings.” Compared to his compatriot E. Carter, elder by over a year, the style of Barber is more classical in many respects, marked with graceful, lyric melodies. The same is true of Op. 14 premiered in 1941. Its opening lets the soloist burst into “song” without waiting for any bars of orchestral introduction. The last movement displays the soloist’s dazzling virtuosity with “*moto perpetuo*,” a rapid motoric flurry of notes.

**Edward Elgar (1857–1934)**

---

## **Variations on an Original Theme Op. 36 “Enigma”**

“Enigma Variations” (1899) brought about the first world-wide success to Elgar, senior compatriot of Britten, gaining a timeless popularity in the English repertoire. Full of playfulness, the work is composed of the theme and its fourteen variations. They “picture” Elgar’s wife (the first variation), himself (the last) and his friends most of whom were amateur musicians. The most famous ninth variation is based on Beethoven’s *Pathétique* Sonata because of a conversation Elgar had with his friend A. Jaeger nicknamed “Nimrod.”

**B**

16 & 17 FEB. 2022

---

**Kumiko Nishi** | For a profile of Kumiko Nishi, see p. 49

PROGRAM

Ikebukuro

C

Concert No.1952

Tokyo Metropolitan Theatre

February

11(Fri) 7:30pm

12(Sat) 2:00pm

conductor

Masaaki Suzuki

piano

Yoshitaka Suzuki\*

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Ikebukuro Program C]

Friday 11th from 6:45pm / Saturday 12th from 1:15pm

Maho Kajikawa(fl.), Shotaro Nakamura(va.), Risako Hayakawa(hp.)

Debussy / Sonata for Flute, Viola and Harp – 1st Movement “Pastorale,” 3rd Movement “Finale”

\* You may enter and leave as you please during the performance. \* Enjoy chamber music from your own seat.

Igor Stravinsky

“Pulcinella,” suite [ 24’]

I (Overture)

II Serenata

III a) Scherzino – b) Allegro – c) Andantino

IV Tarantella

V Toccata

VI Gavotta con due variazioni

VII Vivo

VIII a) Minuetto – b) Finale

Igor Stravinsky

“Petrouchka,” burlesque

(1947 edition)\* [ 34’]

[Tableau I] The Shrovetide Fair – The  
Charlatan’s Booth – Russian Dance

[Tableau II] Petrushka’s Cell

[Tableau III] The Moor’s Room – Dance of  
the Ballerina – Waltz (the Ballerina and the  
Moor)

[Tableau IV] The Shrovetide Fair, Towards  
Evening – Dance of the Wet Nurses –  
Dance of the Coachmen and Grooms –  
The Masqueraders

- This concert will be performed with no intermission.

- The performer and program have changed from the  
original plan.

C

11 & 12, FEB. 2022

Under the auspice of: Toshima City

## Masaaki Suzuki, conductor



Since founding Bach Collegium Japan in 1990, Masaaki Suzuki has established himself as a leading authority on the works of Bach. He has remained their music director ever since, taking them regularly to major venues and festivals in Europe and the U. S. and building up an outstanding reputation for the expressive refinement and truth of his performances. Masaaki Suzuki combines his conducting career with his

work as organist and harpsichordist. As a guest conductor, Suzuki is invited to conduct Orchestra of the Age of Enlightenment, Philharmonia Baroque, Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Danish National Radio, Gothenburg Symphony, New York Philharmonic, Orchestre Philharmonique de Radio France, and San Francisco Symphony. Founder and Professor Emeritus of the early music department at the Tokyo University of the Arts, he was on the choral conducting faculty at the Yale School of Music and Yale Institute of Sacred Music from 2009 until 2013, where he remains affiliated as the principal guest conductor of Yale Schola Cantorum.

---

**Program Notes | Kumiko Nishi**

---

### Igor Stravinsky (1882–1971)

---

#### “Pulcinella,” suite

Stravinsky is often dubbed “Chameleon” as he frequently changed styles. Commissioned by the impresario S. Diaghilev and premiered in 1920 by his dance company, Ballets Russes, *Pulcinella* is from the period when the Russian composer was devoted to Neo-classicism, a musical movement to revive idioms and aesthetics of the 17th and 18th centuries. For this joyful ballet based on “Commedia dell’arte,” an Italian traditional comedy with masked performers, Stravinsky arranged 18th-century Italian music mainly by Pergolesi, spicing it up with modern rhythms and harmonies.

### Igor Stravinsky

---

#### “Petrushka,” burlesque (1947 edition)

Stravinsky composed “Petrushka” in 1910–1911 for Diaghilev and Ballets Russes, immediately after their successful collaboration for “The Firebird.” The plot of “Petrushka” is set at a festive fair during Russian Mardi gras. Inspired by the above-mentioned “Commedia dell’arte,” it tells the love triangle story of three theater puppets (Petrushka, The Ballerina and The Moor) awakened by a magician. Stravinsky borrowed several Russian folk songs for this vivid, avant-garde score and revised it later in 1946–1947 for a smaller orchestra.

---

**Kumiko Nishi** | For a profile of Kumiko Nishi, see p. 49

# The Subscription Concerts Program 2021–22

2022  
04

ikebukuro A	Concert No. <b>1954</b>	<b>April</b> 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	<b>Dvořák</b> "Carnival," overture Op. 92 <b>Mozart</b> Flute Concerto No. 1 G Major K. 313 <b>Beethoven</b> Symphony No. 7 A Major Op. 92	Ordinary Ticket S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	Youth Ticket S 5,800 A 4,800 B 3,800 C 2,800 D 1,800
	B		Christoph Eschenbach, conductor Stathis Karapanos, flute		
Due to the renewal of Suntory Hall, April 2022 concerts will be cancelled.					

2022  
05

ikebukuro C	Concert No. <b>1955</b>	<b>April</b> 15 (Fri) 7:30pm 16 (Sat) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	<b>Mahler</b> Symphony No. 5 C-sharp Minor	Ordinary S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200	Youth S 4,500 A 4,000 B 3,000 C 2,000 D 1,400
			Christoph Eschenbach, conductor		
ikebukuro A	Concert No. <b>1956</b>	<b>May</b> 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	<b>Schumann</b> Violin Concerto D Minor <b>Schubert</b> Symphony No. 8 C Major D. 944 "Die Große"	Ordinary S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,500 D 1,500
	B		Marek Janowski, conductor Alena Baeva, violin		
ikebukuro C	Concert No. <b>1958</b>	<b>May</b> 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	<b>Mendelssohn</b> "Meeresstille und glückliche Fahrt," overture Op. 27 <b>Ravel</b> Piano Concerto G Major <b>Rimsky-Korsakov</b> "Schéhérazade," symphonic suite Op. 35	Ordinary S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	Youth S 5,800 A 4,800 B 3,800 C 2,800 D 1,800
			Fabio Luisi, conductor Yu Kosuge, piano		
ikebukuro C	Concert No. <b>1957</b>	<b>May</b> 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	<b>Mozart</b> "Don Giovanni," opera K. 527 – overture <b>Mozart</b> Piano Concerto No. 20 D Minor K. 466 <b>Beethoven</b> Symphony No. 8 F Major Op. 93	Ordinary S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200	Youth S 4,500 A 4,000 B 3,000 C 2,000 D 1,400
			Fabio Luisi, conductor Alexander Melnikov, piano		

2022  
06

ikebukuro A	Concert No. <b>1959</b>	<b>June</b> 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	<b>Dukas</b> "La Péri," poème dansé (With its appended Fanfare) <b>Ravel</b> Schéhérazade* <b>Debussy</b> Prélude à l'après-midi d'un faune <b>Florent Schmitt</b> "La tragédie de Salomé," ballet suite Op. 50	Ordinary S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,500 D 1,500
	B		Stéphane Denève, conductor Stéphanie d'Oustrac, mezzo soprano*		
ikebukuro C	Concert No. <b>1961</b>	<b>June</b> 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	<b>Bach / Suzuki</b> Passacaglia and Fugue C Minor BWV582 <b>Britten</b> Violin Concerto Op. 15 <b>Mozart</b> Symphony No. 41 C Major K. 551 "Jupiter"	Ordinary S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,500 D 1,500
			Masato Suzuki, conductor Sunao Goko, violin		
ikebukuro C	Concert No. <b>1960</b>	<b>June</b> 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm Tokyo Metropolitan Theatre	<b>Poulenc</b> "Les biches," ballet suite <b>Poulenc</b> Organ Concerto G Minor <b>Gershwin</b> An American in Paris	Ordinary S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200	Youth S 4,500 A 4,000 B 3,000 C 2,000 D 1,400
			Stéphane Denève, conductor Olivier Latry, organ		

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# The Subscription Concerts Program 2022–23

	A	B	C
	NHK Hall [Sat][Sun]	Suntory Hall [Wed][Thu]	NHK Hall [Fri][Sat]
<b>2022</b> <b>09</b>	9/10(Sat), 11(Sun) Fabio Luisi	9/21(Wed), 22(Thu) Fabio Luisi	9/16(Fri), 17(Sat) Fabio Luisi
<b>2022</b> <b>10</b>	10/15(Sat), 16(Sun) Herbert Blomstedt	10/26(Wed), 27(Thu) Herbert Blomstedt	10/21(Fri), 22(Sat) Herbert Blomstedt
<b>2022</b> <b>11</b>	11/12(Sat), 13(Sun) Michiyoshi Inoue	11/23(Wed), 24(Thu) Leonard Slatkin	11/18(Fri), 19(Sat) Leonard Slatkin
<b>2022</b> <b>12</b>	12/3(Sat), 4(Sun) Fabio Luisi	12/14(Wed), 15(Thu) Fabio Luisi	12/9(Fri), 10(Sat) Fabio Luisi
<b>2023</b> <b>01</b>	1/14(Sat), 15(Sun) Tugan Sokhiev	1/25(Wed), 26(Thu) Tugan Sokhiev	1/20(Fri), 21(Sat) Tugan Sokhiev
<b>2023</b> <b>02</b>	2/4(Sat), 5(Sun) Tadaaki Otaka	2/15(Wed), 16(Thu) Jakub Hrůša	2/10(Fri), 11(Sat) Jakub Hrůša
<b>2023</b> <b>04</b>	4/15(Sat), 16(Sun) Paavo Järvi	4/26(Wed), 27(Thu) Paavo Järvi	4/21(Fri), 22(Sat) Paavo Järvi
<b>2023</b> <b>05</b>	5/13(Sat), 14(Sun) Tatsuya Shimono	5/24(Wed), 25(Thu) Fabio Luisi	5/19(Fri), 20(Sat) Fabio Luisi
<b>2023</b> <b>06</b>	6/10(Sat), 11(Sun) Gianandrea Noseda	6/21(Wed), 22(Thu) Gianandrea Noseda	6/16(Fri), 17(Sat) Gianandrea Noseda

All programs subject to change.



# MAROの“偏愛”名曲案内

～フォースと共に

篠崎史紀 著

四六判・152頁 定価1,650円(本体1,500円+税10%)  
ISBN978-4-276-20013-5

**超有名曲からマニアック曲まで25&48曲+α  
クラシック音楽をより深く愛し、弾き、学び、聴くために  
最も大切なこと、ヒント、金言満載!!**

N響コンサートマスター、篠崎史紀(MARO)が偏愛する名曲をジャンル別に厳選、演奏体験などを交えながらご案内。さらに、自身の生い立ちや教育論、SPレコード・蓄音機についてなどコラムも盛り沢山！  
巻末ではMARO秘蔵裏プロフィールもご紹介。



最新刊

## 読めばN響がますます面白くなる!

### 交響録 N響で出会った名指揮者たち

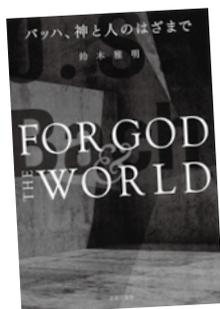
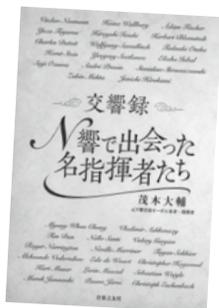
茂木大輔 著

四六判・208頁 定価2,200円(本体2,000円+税10%)  
ISBN978-4-276-21131-5

**N響で共演した巨匠・名指揮者との思い出を綴った渾身の一作!**

N響29年。元首席オーボエ奏者にして人気エッセイストの著者が、自身の記憶の濃さを基準に34名+約110名の名指揮者を厳選。指揮者一人ひとりの個性、仕事ぶり、普段の姿を卓抜な文章センスで表現。共演の感動や熱い想いを、読者も自らの聴取体験と重ね合わせながらしみじみと味わえる。

好評  
発売中



### バッハ、神と人のはざままで

鈴木雅明 著

四六判・256頁 定価2,860円(本体2,600円+税10%)  
ISBN978-4-276-13019-7

**世界的バッハ演奏の第一人者、待望の単著刊行!**

作曲家自身を超え、より崇高な価値へと世界中で再創造され続け、人々を惹きつけてやまないバッハの音楽。その音楽と、そこから溢れ出る恵みを我々に届けるために、楽譜と睨み合い、心に去来した様々な断片——マタイ、ヨハネ、口短調ミサ、カンタータ、指揮、オルガン、旅……。

好評  
発売中



音楽之友社

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30

TEL.03-3235-2151(営業) FAX.03-3235-2148

<https://www.ongakunotomo.co.jp/>

「良い教育は、  
良い環境から」

— 学園創立者 —



川並 香順 川並 孝子



《幼稚園から大学院まで計18の教育機関》

\*実就職率 **96.3%** (全国女子大学ランキング1位)<sup>\*1</sup> \*教育系就職率 **8年連続 100%**

\*保育士採用数 **15年連続全国1位**<sup>\*2</sup> \*幼稚園教員採用数 **8年連続 14回目 全国1位**<sup>\*2</sup>

※1：大学通信調べ卒業生 500人以上の女子大の実就職率ランキング ※2：朝日新聞出版【AERA ムック】大学ランキング 2022年版



聖徳大学 (女子)

聖徳大学短期大学部 (女子)

SEITOKU

〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬 550

TEL.047-365-1111 (大代表)

聖徳大学

検索

<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校  
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校  
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園  
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園  
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

# ME NO ME SINCE 1977 目の眼

モノが語る、声を届ける

創刊から半世紀。月刊誌『目の眼』は、古美術・骨董の世界を広く深く読み解き、その楽しみを伝えています。

毎月15日発売・1,320円税込  
最新号 WEB無料公開中  
<http://menomeonline.com>



古美術 骨董 月刊誌

## 目の眼

ME NO ME  
SINCE 1977

2  
2022, no. 545

幕末明治のやきもの  
時代が生んだ超絶技巧  
村田理如 荒川正明 鈴木由紀夫 洗藤官

淵田洋一郎 茂木健一郎 勝見充男 青木淳

株式会社目の眼 東京都港区麻布十番2-5-13 丸井ビル4F TEL 03-6721-1152



## 音楽と暮らす

コンサートに勝る音楽体験はありません。でも、音楽の楽しみ方はそれだけではない。

ノートPCに外部スピーカーを繋ぐだけで、音の世界は激変します。

さらに、スピーカーを少し大きいものにしてみましょう。

今まで耳だけで聴いていた音楽が、体にも伝わってくるのがわかるはずです。

スマホの音はどうでしょうか？

テレビの音はどうでしょうか？

コンサートの配信動画はどうでしょうか？

お気に入りの家具を選ぶように、オーディオも選んで欲しい。

自宅でゆっくりくつろいで聴く音楽こそが、最高の音楽体験になるかもしれません。

# TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。



世界が注目  
スペインの逸材  
ついに、日本デビュー

KAZUKI YAMADA  
CONDUCTOR

メニューイン国際コンクール優勝記念

# マリア・ドウエニャス

& N響スペシャルコンサート

MARÍA DUEÑAS

& NHK SYMPHONY ORCHESTRA SPECIAL CONCERT

ヴァイオリン: マリア・ドウエニャス

グアルネリ・デル・ジェス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」使用

指揮: 山田和樹

管弦楽: NHK交響楽団

ラヴェル: ツィガーン

ファリャ: バレエ組曲「三角帽子」第1番、第2番

ヴェルディ: 歌劇「運命の力」序曲

パガニーニ: ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

2022年4月26日 火 開演 19:00  
開場 18:00

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥9,000 A ¥8,000 B ¥6,000 C ¥5,000 D ¥3,000

※出演者・曲目に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※原則として、公演中止以外でのチケットの払い戻しはいたしません。

※本公演では新型コロナウイルス感染防止対策を実施します。

※会場内での撮影、録音、録画等はお断りいたします。

※開演時に遅れますとご入場をお待ちいただくことがあります。

※車いすのままご鑑賞をご希望の方は、事前にお問合せ先にご連絡ください。

※就学前のお子様のお同伴・入場はご遠慮ください。

【チケット収益について】

コンサートのチケット収益は、がんを経験している人とその家族や友人など、  
がんに影響を受ける方々への無料の相談支援の場『マギーズ東京』の運営費となります。

主催: 日本音楽財団

共催: NHK交響楽団、認定NPO法人マギーズ東京

助成: 日本財団(予定)

チケット取り扱い

N響ガイド 03-5793-8161

東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296 <https://www.geigeki.jp/ti/>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

マギーズ東京Peatix <https://maggiestokyo.peatix.com/>

チケットのお問合せ 認定NPO法人マギーズ東京チャリティーコンサート事務局

03-6261-7665 [concert@maggiestokyo.org](mailto:concert@maggiestokyo.org)

日本音楽財団  
NIPPON MUSIC FOUNDATION

NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

MAGGIE'S  
Tokyo

Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

# 慄然たるハルサイ

パーヴォ・ヤルヴィがN響と成し遂げた巨大なメルクマール。



## ストラヴィンスキー 春の祭典 最新盤

パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)  
NHK交響楽団

■ 収録曲

- ストラヴィンスキー ① 幻想曲「花火」 作品4  
② 幻想的スケルツォ 作品3 ③ ロシア風スケルツォ [管弦楽版]  
④ 葬送の歌 作品5 ⑤ バレエ「春の祭典」(1947年改訂/1967年新版)

DSDレコーディング [録音] 2019年2月20日&21日 サントリーホールにおけるNHK交響楽団  
第1908回定期公演(Bプログラム)でのライブレコーディング

ストラヴィンスキーの代表作「春の祭典」を中心に、ロシア/バリ・ディアギレフ時代の先進的な意欲作を網羅。「音楽の進む道を変革した最大の問題作が「春の祭典」。先史時代の音絵巻とも言うべきこの作品の聴く者を圧倒するようなバーバリックな持ち味を現実の音にするには、N響の持つ精緻・明晰さ、そして、「信じがたいほどのパワフルさが必要」と自信に溢れたパーヴォ・ヤルヴィの言葉を裏付ける、一世一代の凄絶な名演奏です。

NOW ON SALE

ハイブリッドディスク HYBRID SICC 19055 ¥3,520 (税込)

### パーヴォ・ヤルヴィ | N響の名盤

絶賛発売中



#### R.シュトラウス： 交響詩チクルス

1 英雄の生涯&ドン・ファン  
SICC 19003 ¥3,300(税込)



2 ドン・キホーテ、  
ティル・オイレンシュピーゲル  
& ばらの騎士  
SICC 19020 ¥3,300(税込)



3 ツァラトゥストラはかく語りき  
メタモルフォーゼン  
SICC 10219 ¥3,300(税込)



ムソルグスキー  
展覧会の絵&げげの一夜  
SICC 19026 ¥3,300(税込)



マーラー  
交響曲第6番「悲劇的」  
SICC 19040 ¥3,520(税込)



ワーグナー  
楽劇「ニーベルングの指環」  
管弦楽曲集  
SICC 19043 ¥3,520(税込)



パーヴォ・ヤルヴィN響 | 20世紀傑作選  
1 バルトーク  
弦楽のためのディヴェルティメント・  
舞踏組曲・弦楽器・打楽器・  
チェレスタのための音楽  
SICC 19042 ¥3,520(税込)



2 武満徹  
管弦楽曲集  
SICC 19045 ¥3,520(税込)



3 ストラヴィンスキー  
3楽章の交響曲・カルタ遊び・  
ミューズのための音楽  
SICC 19049 ¥3,520(税込)

近日発売予定 20世紀傑作選⑤ メシアン：トゥーランガリラ交響曲



### ブルックナー没後125年メモリアル・リリース

パーヴォ・ヤルヴィのライフワーク、ブルックナー全集、11年がかりでついに完成。

## ブルックナー 交響曲全集

完全生産限定盤 HYBRID 10ハイブリッドディスク(SA-CD層は2chと5.1ch)  
SICC 10331~40 ¥22,000(税込)

パーヴォ・ヤルヴィ &  
第(0番~第9番) フランクフルト放送交響楽団

絶賛発売中

# 脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・Maruigas<sup>マルイガス</sup>の全国販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、低炭素なLPガスの開発、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

## 水素&LPガスシェアNo.1<sup>※</sup>

※国内における販売シェア(2021年5月現在、自社調べ)

## Iwatani

岩谷産業株式会社